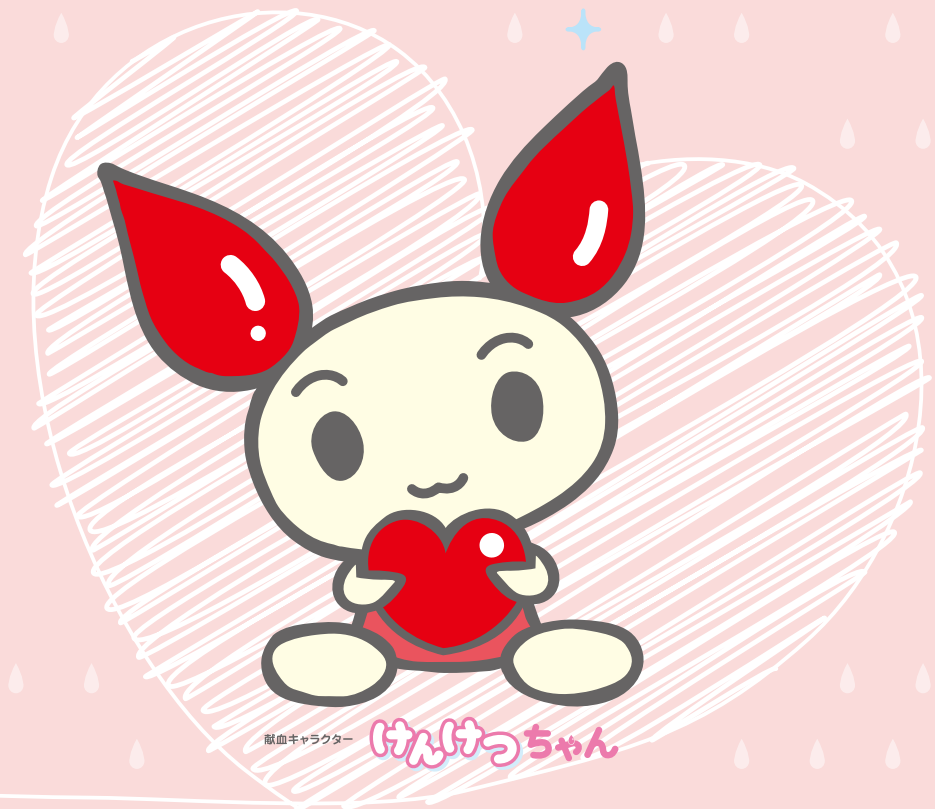


愛のかたち献血



献血キャラクター けんけっちゃん

広げよう、献血の輪！

Give blood. Save life.

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 電話 03-3438-1311
日本赤十字社に関する情報などはホームページをご覧ください。
<http://www.jrc.or.jp/>



ごあいさつ

日本赤十字社
血液事業本部長 高橋 孝喜

わずか40分で助かる命があります。
献血から生まれる“愛の贈りもの”が
尊い命を救います。

日頃より、血液事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
みなさまからの善意によりいただいた血液から、輸血用血液製剤や血漿分画製剤（免疫グロブリン製剤等）が製造され、医療の現場で有効な治療の一翼を担っています。
血液は、まだ人工的に造ることができず、また、長い期間にわたって保存することもできません。そのため、血液をいつでも十分に確保しておくためには、絶えずみなさまからの献血が必要となります。
日本赤十字社は、次頁の基本理念、グランドデザインに基づき、安全性の高い血液を安定的に医療機関に供給できるよう努めています。
「新しい生活様式」のなかにおいても、行政や献血協力団体のみなさまとの連携を密にし、将来の献血基盤を支える若い世代を中心に、献血に関するご理解とご協力をお願いしていくことが重要であり、特に、献血WEB会員サービス『ラブラッド』をより一層発展させていきたいと考えております。
新型コロナウイルスの感染対策と献血血液の安全対策を両立させながら、みなさまに安心して献血いただける環境を整えて、安全性の高い血液を安定的に医療機関へお届けしてまいります。このパンフレットをご覧になり、献血の意義と現状をご理解いただき、引き続き献血へのご協力をお願い申し上げます。

目次

ごあいさつ	1	献血について	
基本理念／グランドデザイン	2	献血の採血基準とながれ	12
血液事業とは	3	採血基準とながれ	13
血液製剤の種類	5	献血前のお願い	14
献血血液のゆくえ	7	献血における質問事項	15
ありがとうの声	9	献血後のお願い	16
献血の現状と将来	10	献血後のお知らせ	17
新しい生活様式への対応等	11	献血Web会員サービス ラブラッド	18
		安全性に関する取り組み	19
		血液事業の財政基盤	21
		血液事業Q&A	23
		日本の血液事業のあゆみ	25
		参考) 血液の知識	27
		血液センター所在地一覧	28
		献血ができる場所一覧	29

Basic Principle



基本理念

血液製剤を必要としている方の尊い生命を救うため

需要に応じた献血血液を安定的に確保し

安全性・品質向上に取り組み

献血者の皆様の想いを届けます

グランドデザイン（2028年に向けて）

- 血液製剤の安全性・品質の追求**
安心して輸血を受けていただくために血液製剤の安全性・品質の向上に努めます。
- 的確な需要の把握に基づく血液の確保**
医療機関が必要としている血液を的確に把握し過不足なく確保します。
- 安全で快適に献血ができる環境の整備**
献血者の皆様が安全で快適に過ごせる環境づくりに取り組みます。
- 医療機関から信頼される供給体制の実現**
絶えず改善・改革を行い、適正かつ効率的な供給体制を実現します。
- 関連する事業の発展と新たな事業展開の促進**
造血幹細胞移植事業の普及推進と保有する技術・知識を活用した新たな事業の展開を目指します。
- 世界の血液事業への貢献**
これまで培った知識、技術及び経験を活かし、海外の血液事業の発展に貢献します。
- 持続可能な事業基盤の確立**
常に合理的・効率的な事業運営に努め、将来に亘って持続可能な事業基盤を確立します。
- 関係者と協同した事業の実施**
行政、医療機関、献血協力団体を始めとする関係者との相互理解を深め、協同して事業を進めます。
- 自らの仕事に誇りとやりがいを持ち活躍できる働き方の実現**
赤十字職員であることの自覚を持ち、職員がやりがいを感じながら働ける職場にします。

血液事業とは

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける方を募集し、その血液を採取し、血液製剤（人の血液または血液から得られた物を有効成分とする医薬品。輸血用血液製剤と血漿分画製剤とがある。）として、治療を必要とする患者さんのため、医療機関に供給する一連の事業のことをいいます。

わが国では、病気やけがの治療のため、輸血や血液製剤を必要とする人たちが数多くいます。この血液製剤は、健康な方々から自発的に無償で血液を提供いただく「献血」により作られています。わが国の血液事業は、「献血」によって支えられており、血液を必要とする多くの患者さんが、日々救われています。

日本赤十字社は、1952年（昭和27年）4月に日本赤十字社中央病院（現日本赤十字社医療センター）に日本赤十字社血液銀行東京業務所を開設し、血液事業を開始しました。その後も、受入れ施設を整備するとともに献血の周知、普及に努めてきました。

今日、血液事業に携わる関係者は幅広く、国、都道府県や市町村、日本赤十字社を始め、血液製剤の製造・販売業者、実際に製剤を使用する医療機関、患者の方々、そして、献血に協力して下さる企業やボランティア、国民の皆さまの協力により、血液事業は成り立っています。ひとりでも多くの人を救いたい、そんな一人ひとりの思いがこれからの血液事業を発展させていきます。

献血の目的

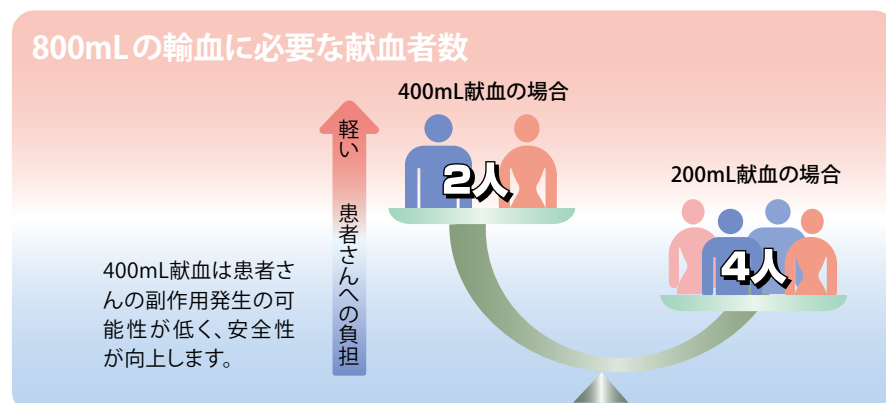
医療技術が進歩した今日でも血液は人工的に造ることができず、長期保存もできません。また、献血者の健康を守るため、1人の方が1年間に献血できる回数や量には上限があります。そのため、安定的に血液製剤をお届けするためには、一年を通じて多くの方に継続してご協力いただく必要があります。

献血で集められた血液は、怪我をしたときの輸血に使用されるイメージがありますが、それは全体のごくわずかで、ほとんどは、がんなどの病気の治療に使用されています。

また、輸血に使用される輸血用血液製剤は、献血血液のおよそ半分で、残りの半分は血漿分画製剤という医薬品を造るために使用されています。

400mL献血、成分献血をお願いしています

人間一人ひとりの血液は、たとえ血液型が同じでも微妙に違っています。このため複数の献血者の血液をあわせて一人の患者さんに輸血するほど、副作用（発熱、発疹など）発生の可能性が高くなります。400mL献血と成分献血は、200mL献血に比べて献血量が多いことから、少ない献血者からの輸血を可能にし、安全性を向上させる献血の種類といえます。そのため、献血いただく方のご意思を尊重し、献血によって体調を崩すことのないよう、問診により健康状態について慎重に確認したうえで、400mL献血と成分献血のご協力をお願いしています。



献血から医療機関まで

献血



献血ができる主な場所



献血ルーム



献血バス

血液センター



検査



製剤



冷蔵・冷凍保管



供給



原料血漿

輸血用血液製剤

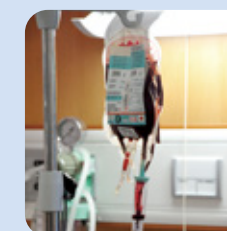
国内製薬企業※

日本製薬株式会社
一般社団法人日本血液製剤機構
KMバイオロジクス株式会社

※国内製薬企業に送付した原料血漿から製造した血漿分画製剤にはすべて「献血」採血国：日本と明記されています。

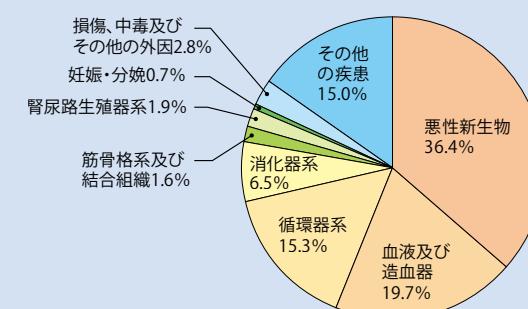
血漿分画製剤

医療機関（患者さんのもとへ）



疾病別輸血状況

（令和元（平成31）年東京都）※不詳は除く



（東京都福祉保健局調べ）

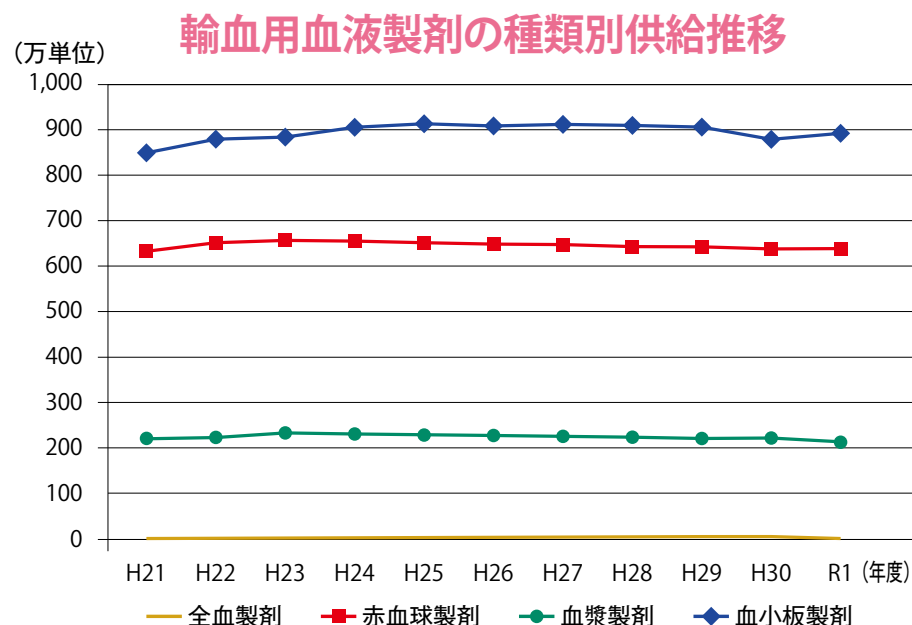
輸血用血液製剤の多くはがん（悪性新生物）の患者さんの治療に使われています。

いただいた献血血液は輸血用血液製剤と血漿分画製剤へ

輸血用血液製剤とは

輸血用血液製剤には「赤血球製剤」「血漿製剤」「血小板製剤」「全血製剤」があります。当初は採血されたままの血液、すなわちすべての成分を含んだ「全血製剤」の輸血が主流でしたが、現在では、患者さんが特に必要とする成分だけを輸血する「成分輸血」が主流となっています。

「成分輸血」は、患者さんにとって不必要な成分が輸血されないため、循環器（心臓や腎臓など）の負担が軽減できます。医療機関への全供給数のうち、「赤血球製剤」「血漿製剤」「血小板製剤」でほぼ100%を占めています。



輸血用血液製剤のご紹介

赤血球製剤

- 保存温度 2～6℃
- 有効期間 採血後21日間



出血および赤血球が不足する状態、またはその機能低下による酸素欠乏のある場合に使用されます。

血漿製剤

- 保存温度 -20℃以下
- 有効期間 採血後1年間



複数の血液凝固因子の欠乏による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

血小板製剤

- 保存温度 20～24℃
- 有効期間 採血後4日間
- 要振とう



血小板の減少またはその機能低下による出血ないし出血傾向のある場合に使用されます。

全血製剤

- 保存温度 2～6℃
- 有効期間 採血後21日間



大量出血などすべての成分が不足する状態で、赤血球と血漿の同時補給を要する場合に使用されます。

血漿分画製剤とは

血漿分画製剤とは、血漿中に含まれる血液凝固因子、免疫グロブリン、アルブミンなどのたん白質を抽出・精製したものです。製品は瓶入りで安定性も高く、輸送・保管が簡便で、有効期間が長いというメリットがあります。しかし、数万人の血漿をまとめて製造するため、ウイルスなどが混入した場合、多数の患者さんが感染する危険性があります。そのため、国内製薬企業では、最先端のウイルス除去・不活化処理を行うなど、安全性を向上させる努力を続けています。

血漿分画製剤のご紹介

免疫グロブリン製剤



重症神経症やある種の神経疾患免疫機能が低下した場合に使用されます。

血液凝固第Ⅷ因子製剤



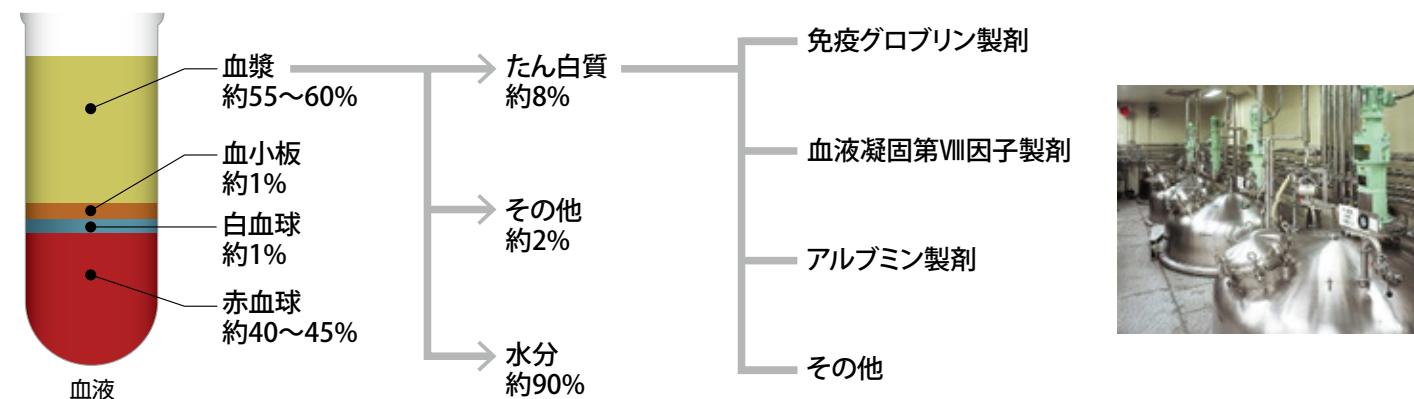
血友病などに使われます。

アルブミン製剤



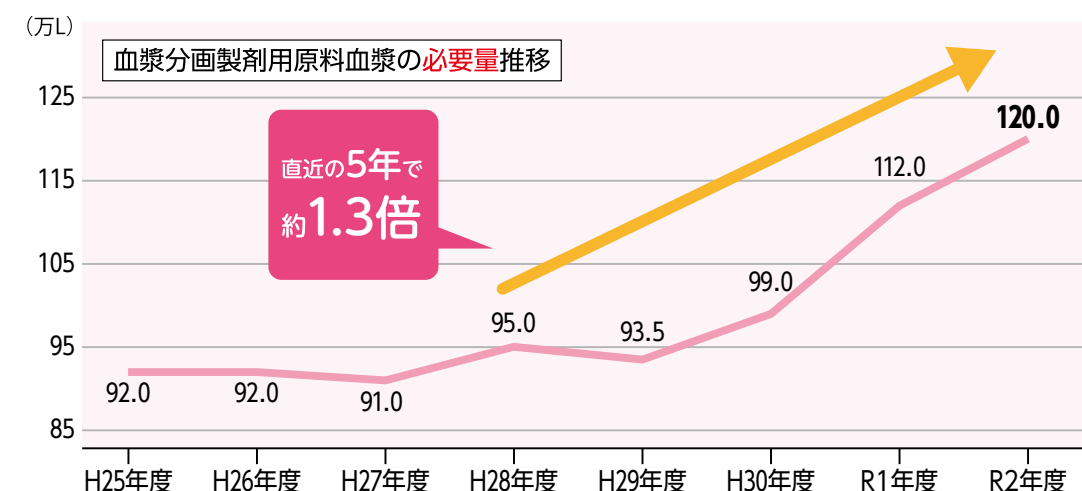
やけどやショックなどに使用されます。

～血漿分画製剤がえられる流れ～



血液の成分中の血漿を原料として、各種血漿分画製剤が作られます。

血漿分画製剤は、一部を除き、献血血液の成分である血漿を原料としてのみ製造が可能です。近年、免疫グロブリン製剤の必要量が急激に増加しています。



献血の種類

全血献血

血液中のすべての成分を採血する方法です。

200mL献血

400mL献血

成分献血

血液中の血小板や血漿だけを採血する方法です。

血漿成分献血

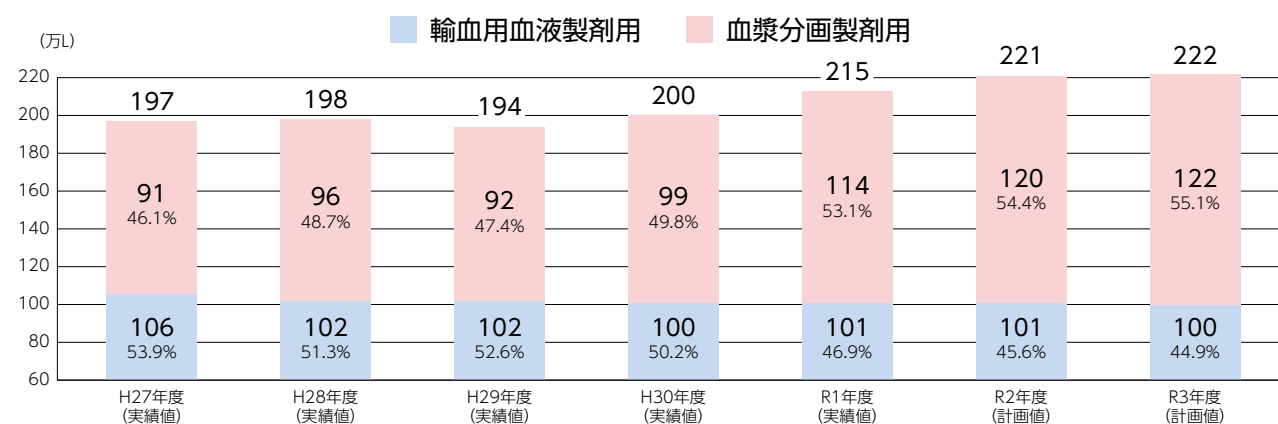
血小板成分献血

各種検査

検体保管

献血には、いくつか種類があります。
献血された血液は、患者さんが必要とする
様々な血液製剤になります。

献血血液量の推移



※端数処理により合計値が不一致となる場合があること

輸血用血液製剤

全血製剤

- 保存温度 2～6℃
- 有効期間 採血後21日間



赤血球及び血漿成分を同時に必要とする場合に使われます。

赤血球製剤

- 保存温度 2～6℃
- 有効期間 採血後21日間



貧血、外科手術前後などに使われます。

血漿製剤

- 保存温度 -20℃以下
- 有効期間 採血後1年間



外傷や外科手術などに使われます。

血小板製剤

- 保存温度 20～24℃
- 有効期間 採血後4日間
- 要振とう



血小板産生低下による血小板減少症などの場合に使われます。

血漿分画製剤

免疫グロブリン製剤



免疫機能が低下した場合や重症感染症、ある種の神経疾患、川崎病などに使われます。

アルブミン製剤



やけどやショックなどに使われます。

血液凝固第Ⅷ因子製剤



血友病などに使われます。

その他

原料血漿

国内製薬企業

100人のやさしさが私の体をめぐっています

お芝居を始めたのは中学の部活。高校生になっても演技をすることが好きでレッスンに通っていました。そんな高校2年生の秋に「急性リンパ性白血病」と診断されました。治療中は身体的のみならず、気持ち的にもつらかったです。薬の副作用で、髪の毛もまだらになって抜けていくし、顔もむくみ、外見が変わってしまっ。そんな中、支えになったのが担当医や看護師さん。治療のみならず、節分のときは看護師さんが鬼の格好をしてくれたり、クリスマスは研修医の先生がサンタクロースの格好をして病室をまわってくれたり。何より、母はずっと

一緒に付き添ってくれました。そして多くの輸血にも支えてもらいました。輸血前は具合が悪くて意識が遠のくほどふらふらしてしまっ。でも、輸血を始めるとだんだん体全体が温まっ。頬がほてるのを感じるんです。「ああ生きてるんだな」って実感がありました。私の体にめぐっているものって、100人以上の方の好意、優しさです。みなさんが献血してくれのおかげで私たち患者はこうして元気に今生かしています。



タレント ともよせ 蓮 さん

献血は血の通った、あたたかい贈りもの

はじめての出産の際、準備万端で臨みましたが、医師も驚くほど突然の大量出血により輸血を経験しました。みるみるうちに手足が真っ白になり、パンパンにむくんでいき、半袖でも暑くてしかたないくらいの気温だったはずなのに、気づけば「寒い、寒い」と連呼していました。私にとって献血とは、文字どおり、血の通ったあたたかい贈りものです。あのとき、輸血用の血液がなかったら、私の手は冷たいまま。生まれた子の頭を撫でてあげることでもできませんでした。いわばこの子は、みなさんの愛によって生まれた命。いろんな方の優しさとぬくもりに満ちた大切なプレゼントなんです。

34歳のとき、はじめての出産で大量出血を起こし輸血を受ける。そのときに、生まれた子と一緒には現在、元気いっぱいに過ごしている。



あさわ えりこ 三澤 恵利子 さん

献血がクスリになることを知りました

息子が3才のとき川崎病と診断され、グロブリン製剤を点滴してもらいました。今ではとても元気な野球少年です。いつも元気な息子がうなされている姿を見ると、本当に気が気ではありませんでした。献血をして下さった方々にはとても感謝しています。献血がクスリになって治療に役立つことを知り、今まで以上に献血の必要性を感じました。

と い だ か い と 戸井田 海音 くんのお父さん

血漿分画製剤のおかげで命をつなぎました

仕事や子育てに走りまわっていた40歳の時に自己免疫の病気「重症筋無力症」と診断されました。全身の筋肉に力が入りにくく、すぐに疲れてしまう。その時服用していた薬の副作用に悩まされ、気持ちと身体をだましながら毎日を過ごしていました。そんな時、新たな治療法として免疫グロブリン療法を取り入れることになりました。この治

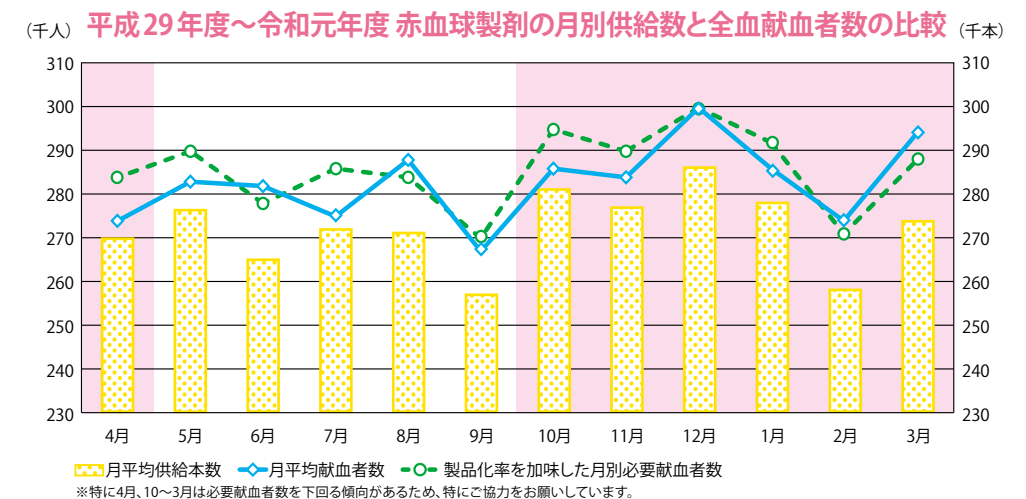
療の薬（血漿分画製剤）はみなさんが献血してくださった血液からつくられます。免疫系の病気の仲間もこの薬のおかげで命をつなぎ、学校生活や社会生活を送る事が出来るようになっていきます。献血をしてくださったみなさんに心より感謝申し上げます。



つ ね かわ れい こ 恒川 礼子 さん

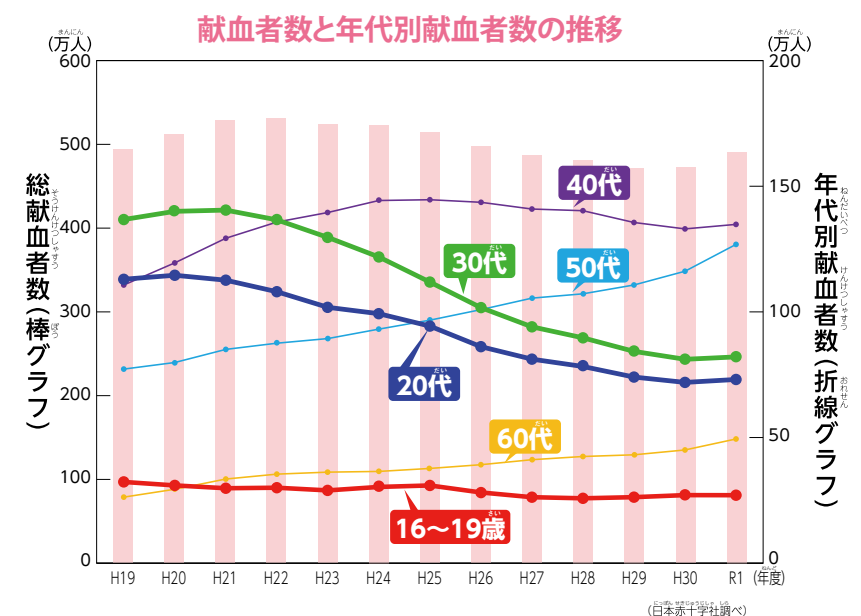
定期的な献血へのご協力をお願い

日本赤十字社では、医療機関の血液需要を予測し、これに沿って献血のご協力をお願いしています。赤血球製剤の供給数は、秋から冬にかけて一時的に増える傾向がみられますが、一年を通じて27万本前後を推移しています。一方、献血者は、献血にご協力いただいた献血者数が、必要献血者数を下回る月もあることから、過不足ない献血協力が求められています。医療機関へ血液を確実にお届けするために、継続的な献血へのご協力をお願いします。



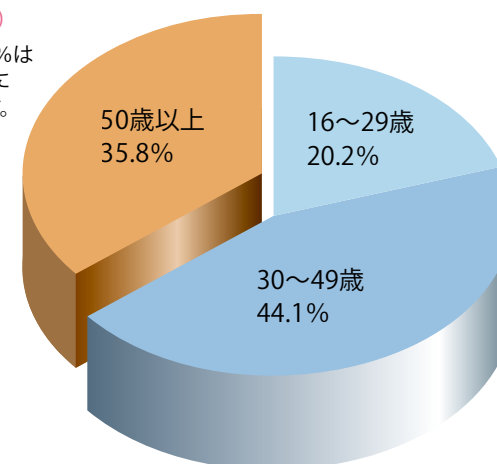
少子高齢社会を迎えて

輸血用血液製剤や血漿分画製剤の多くは高齢者の医療に使われており、輸血用血液製剤を使用されている方の約85%は50歳以上の方々です。一方で、献血いただいている方の約70%は50歳未満の方々であり、この世代の方々が輸血医療を大きく支えています。しかし、若年層（10～30代）の献血者数は減少傾向にあります。日本の少子高齢化が今後ますます進んでいくと、将来の安定供給に支障をきたす恐れがあります。血液は長期保存することができませんので、献血血液を十分に確保する必要があります。今後の安定供給のためにも、特に若い世代の献血へのご理解とご協力が不可欠になっています。



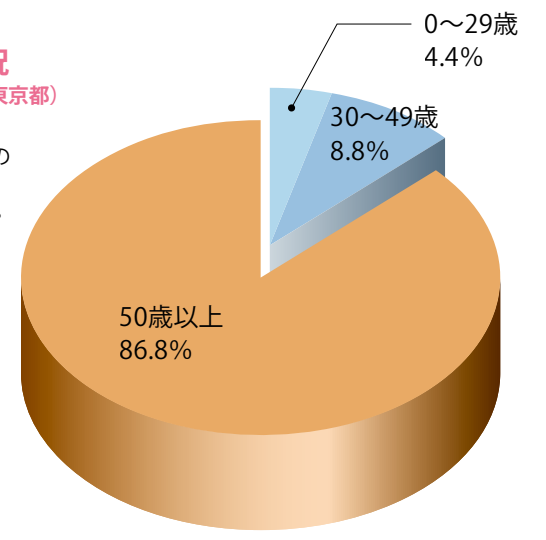
年代別献血状況 (令和元年度全国)

献血者数の約70%は50歳未満の方々に支えられています。



年代別輸血状況 (令和元(平成31)年東京都)

輸血用血液製剤を使用されている方々の約85%は50歳以上の方々です。



※端数処理しているため、合計が必ずしも100%にはならない。

採血の種類		全血採血		成分採血	
		200mL	400mL	血漿	血小板
1回採血量		200mL	400mL	600mL以下（循環血液量の12%以内）	
年 齢		16～69歳	男性:17～69歳 女性:18～69歳	18～69歳	男性:18～69歳 女性:18～54歳
		ただし、65～69歳の者については、60歳に達した日から65歳に達した日の前日までの間に採血が行われた者に限る。			
体 重		男性45kg以上 女性40kg以上	男女50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧		90mmHg以上180mmHg未満			
最低血圧		50mmHg以上110mmHg未満			
脈 拍		40回/分以上100回/分以下			
体 温		37.5℃未満			
血色素量		男性:12.5g/dL以上 女性:12.0g/dL以上	男性:13.0g/dL以上 女性:12.5g/dL以上	12g/dL 以上 (赤血球指数が標準域*にある女性は11.5g/dL 以上) * 標準域 MCV: 81 ～ 100 (fL) MCH: 26 ～ 35 (pg) MCHC: 31 ～ 36 (%)	12g/dL以上
血小板数		—————	—————	—————	15万/ μ L以上 60万/ μ L以下
採血間隔	〔前回採血〕				
	200mL全血	男女とも4週間後の同じ曜日から			
	400mL全血	男性は12週間後、 女性は16週間後の同じ曜日から		男女とも8週間後の同じ曜日から	
	血漿成分	男女とも2週間後の同じ曜日から			
	血小板成分	なお、血小板成分採血では、血漿を含まない場合1週間後に血小板成分採血が可能。 ただし、4週間に4回実施した場合には次回までに4週間あける。			
年間*総採血量 （1年は52週として換算）		200mL・400mL全血を合わせて 男性 1,200mL以内 女性 800mL以内		—————	—————
年間*採血回数 （1年は52週として換算）		男性 6 回以内 女性 4 回以内	男性 3 回以内 女性 2 回以内	血小板成分献血 1 回を 2 回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	
共通事項		次の者からは採血しない。 ① 妊娠していると認められる者、又は過去 6 ヶ月以内に妊娠していたと認められる者 ② 採血により悪化するおそれのある循環系疾患、血液疾患その他の疾患に罹っていると認められる者 ③ 有熱者その他健康状態が不良であると認められる者			

12

献血の流れ

1 受付

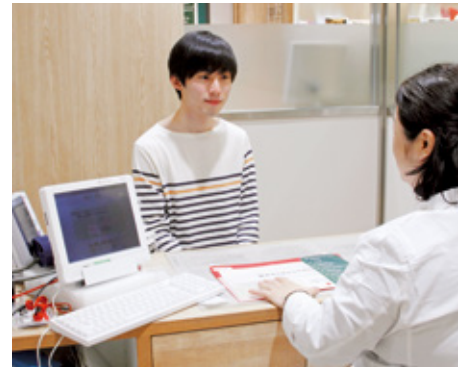
受付確認票への記入と、本人確認を行います。その後、質問事項に回答していただきます。プライバシーは厳守されるのでご安心ください。



津田沼献血ルーム(千葉県)

2 問診・事前検査

質問の回答に基づき、問診と血圧・体温測定を行います。その後、少量の採血を行い、貧血の心配がないか事前に調べます。



3 採血

採血ベッドに横になり採血を開始します。採血時間は、全血献血で10～15分程度、成分献血は採血量に応じて40～90分程度です。



4 休憩

献血後は、休憩場所で十分に水分をとりしばらく休憩してください。最後に献血カードを受け取り、献血は終了です。



献血と同時に骨髄バンクのドナー登録の受付が可能です。

- ① ドナー登録のしおり「チャンス」をお読みいただき、骨髄・末梢血幹細胞の提供に関してご理解いただいたうえで、必要事項を記入した「骨髄バンクドナー登録申込書」をお持ちいただき、受付で「骨髄バンクのドナー登録も一緒に」とお伝えください。
※献血ルームでは、骨髄バンク説明用動画もご用意しておりますので、ご希望の方は職員にお申し出ください。
- ② 骨髄バンクのドナー登録用の血液(2mL)を採取します。

献血ができる場所



献血ルーム



献血バス



オープン献血

献血は主に献血ルームと献血バスで受付けています。献血ルームは主に駅前や商店街など、都市部を中心に交通の便が良い場所にあり、献血いただく方が快適に安心して献血ができる環境を整えています。

献血バスは、献血に必要な機材を車内に搭載し、事業所や

学校、ショッピングモールなど、様々な場所で献血のお願いをしています。

また、献血バスを止める場所がない場合は、会議室等をお借りして、採血ベッドや機材などを全て持ち込み、臨時的献血会場として献血のお願いをしています。(オープン献血)

献血前にお読みください

献血前に

- お名前、生年月日、住所、電話番号等は正確にお答えください。
- 初めて献血をされる方は、ご本人の確認のため、運転免許証などの提示をお願いします。
- 問診項目には正確にお答えください。事実と異なる回答をされた場合、輸血を受けた患者さんに深刻な状況をもたらす場合があります。
- 献血に伴う副作用予防のため、献血前に水分(スポーツドリンク等)を補給してください。
- 献血後に高所作業や激しいスポーツ、自動車の運転等をされる方は献血前にお知らせください。特に乗り物の運転をされる方は、献血後に十分な休憩(30分以上)をおとってください。

献血時は

- 血圧や血色素量(ヘモグロビン濃度)を事前に測定します。
- 200mL・400mL献血では10分から15分位、成分献血では体重等に応じて採血する量(上限600mLまで)が異なりますので、40分から90分位の採血時間がかかります。
- 採血針や採血バッグ等は、お一人ずつ使い捨てとなっています。
- 採血装置の不具合等により、採血が中断されたり、いただいた血液が輸血に使用できなくなることがあります。

献血に伴う副作用と注意

- 次のような症状が起きた場合は、すぐに職員にお知らせください。
 - ・ 針を刺したときに、強い痛みやしびれがある場合。
 - ・ 気分不良やめまい等の症状がある場合。
※立ち上がりず、そのままの姿勢でお知らせください。
 - ・ 口唇や手指のしびれ感などの症状がある場合。
※成分献血では血液が固まらないように抗凝固剤(クエン酸ナトリウム)を使用しているため、このような症状を起こすことがあります。
 - ・ 皮下出血がある場合。
- 採血針を刺したところに、跡が残ることがあります。

献血していただいた血液は

- 検査を実施し、血液製剤の基準に適合する場合のみ、輸血に使用いたします。
- 血液の一部は少なくとも11年間冷凍保存し、輸血による副作用や感染症などの調査のために使用します。

献血の依頼について

- 受付時に確認させていただく「献血の依頼についての応諾意思」に同意いただいた方には、はがき、電話、メール、LINE等により、患者さんに必要な血液製剤を供給するために、献血にご協力をお願いする場合があります。

献血の同意説明書

献血にご協力いただき、ありがとうございます。
1～4の事項をご確認いただき、献血受付へお進みください。

1. 献血に伴う副作用について

- ① 気分不良、吐き気、めまい、失神などが0.9%(約1/100人)、失神に伴う転倒が0.008%(1/12,500人)の頻度で発生します。
- ② 針を刺すことによる皮下出血が0.2%(1/500人)、神経損傷(痛み、しびれ、筋力低下など)が0.01%(1/10,000人)の頻度で発生します。
(医療機関の受診を伴う副作用には、「献血者健康被害救済制度」が適用されます。)

2. 個人情報の取扱いについて

- ① 個人情報や検査結果等は血液センターにおいて厳重に管理され、安全な血液製剤を安定的に確保し、患者さんへお届けするために、また、皆様の健康を守るために利用させていただきます。
- ② 検診の結果、献血いただけないことがありますが、申告いただいた個人情報は、医師法、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」などの定めにより削除できません。

3. 血液の検査等について

- ① いただいた血液の一部を用いて、次の検査を行います。
血液型(ABO型、Rh型、HLA遺伝子型等)、不規則抗体、梅毒、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エイズウイルス(HIV)、ヒトT細胞白血病ウイルス-1型(HTLV-1)、ヒトパルボウイルスB19、ALT(肝機能)等
※あなたの血液をもらった患者さんやあなた自身の健康のため、上記以外にも病原体を検査することがあります。
- ② 血液型や輸血副作用の検査・解析のため、赤血球型、白血球型、血小板型及び血漿蛋白の遺伝子検査を行うことがあります。
- ③ 血液製剤の品質管理や輸血用の検査試薬の製造に使用することがあります。

4. 血液の有効利用について

- いただいた血液は、個人を特定できる情報と切り離し、厳密な審査のもと、一般公募された研究機関等および日本赤十字社が実施する、以下の研究開発等に使用することがあります。なお、その際、遺伝子を解析することがあります。
- ① 血液製剤の有効性・安全性の向上及び検査法の向上を目的とした使用
 - ② 病気の診断・治療や国民の健康状態の改善を目的とした使用

輸血を受ける患者さんのために「責任ある献血※」をお願いします

※エイズなどの検査を目的とした献血を絶対にしないこと、問診に正しく答えて献血していただくこと

質問事項

- 1 今日の体調は良好ですか。

2 3日以内に出血を伴う歯科治療(抜歯、歯石除去等)を受けましたか。

3 3日以内に薬を飲んだり、注射を受けましたか。

4 次の育毛薬／前立腺肥大症治療薬を使用したことがありますか。
プロペシア・プロスカ等(1ヵ月以内)、アボダート・アボルブ等(6ヵ月以内)

5 次の薬を使用したことがありますか。
乾せん治療薬(チガソン)、ヒト由来プラセンタ注射薬(ラエンネック・メルスモン)

6 24時間以内にインフルエンザの予防接種を受けましたか。

7 1年以内にインフルエンザ以外の予防接種を受けましたか。

8 次の病気や症状がありましたか。
3週間以内 - はしか、風疹、おたふくかぜ、帯状ほうしん、水ぼうそう
1ヵ月以内 - 発熱を伴う下痢
6ヵ月以内 - 伝染性単核球症、リンゴ病(伝染性紅斑)

9 1ヵ月以内に肝炎やリンゴ病(伝染性紅斑)になった人が家族や職場・学校等にいますか。

10 6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがありましたか。
①ピアス、またはいれずみ(刺青)をした。
②使用後の注射針を誤って自分に刺した。
③肝炎ウイルスの持続感染者(キャリア)と性的接触等親密な接触があった。

11 1年以内に次の病気等にかかったか、あるいは現在治療中ですか。
外傷、手術、肝臓病、腎臓病、糖尿病、結核、性感染症、ぜんそく、アレルギー、疾患、その他

12 今までに次の病気にかかったか、あるいは現在治療中ですか。
B型肝炎、がん(悪性腫瘍)、血液疾患、心臓病、脳卒中、てんかん

13 今までに次の病気にかかったことがありますか。
C型肝炎、梅毒、マラリア、バベシア症、シャーガス病、リーシュマニア症、アフリカトリパノソーマ症

14 海外から帰国(入国)して4週間以内ですか。

15 1年以内に外国(ヨーロッパ・米国・カナダ以外)に滞在しましたか。

16 4年以内に外国(ヨーロッパ・米国・カナダ以外)に1年以上滞在しましたか。

17 英国に1980(昭和55)年～1996(平成8)年の間に通算1ヵ月以上滞在しましたか。

18 ヨーロッパ(英国も含む)・サウジアラビアに1980年以降、通算6ヵ月以上滞在しましたか。

19 エイズ感染が不安で、エイズ検査を受けるための献血ですか。

20 6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがありましたか。
①不特定の異性または新たな異性との性的接触があった。
②男性どうしの性的接触があった。
③麻薬、覚せい剤を使用した。
④エイズ検査(HIV検査)の結果が陽性だった(6ヵ月前も含む)。
⑤上記①～④に該当する人と性的接触をもった。

21 今までに輸血(自己血を除く)や臓器の移植を受けたことがありますか。

22 今までに次のいずれかに該当することがありますか。
①クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)または類縁疾患と診断された。
②血縁者にCJDまたは類縁疾患と診断された人がいる。
③ヒト由来成長ホルモンの注射を受けた。
④角膜移植を受けた。
⑤硬膜移植を伴う脳神経外科手術を受けた。

23 現在妊娠中または授乳中ですか。
この6ヵ月以内に産、流産をしましたか。

●質問事項の内容以外にも問診により当日の献血をご遠慮いただく場合があります

ご協力ください

献血後、健康診断や医療機関などで肝炎等と診断された場合、またそのほかの病気や感染症にかかっているとわかった場合は、血液センターまでご連絡ください。

輸血を受けられた患者さんについて感染症などの報告があった場合、その原因調査を行うため、また、献血者ご自身の健康管理のため、検査用血液の採血を再度お願いしています。

献血された方にコールバック用紙「今一度、ご確認をお願いします!」という印刷物※をお渡しします。こちらの記載に関して、思い当たる内容があった場合は、必ず献血当日中にコールバック用紙「今一度、ご確認をお願いします!」に記載されている電話番号へお電話ください。※P16を参照

エイズ検査施設

エイズ検査をご希望の方は最寄りの保健所にお問合せください。
保健所ではHIV検査を匿名、無料で受けることができます。
「HIV検査相談マップ」(<http://www.hivkensa.com>)に、保健所などの検査施設情報が掲載されています。

献血当日は次のことをお願いいたします

- ・ **休 憩** …献血後少なくとも10分以上休憩してからお帰りください。特に乗り物を運転される場合は、その前に十分な休憩(30分以上)をおとりください。
- ・ **水 分 補 給** …献血会場内で水分(200mL以上)を補給し、会場を出てからもジュース(スポーツドリンク)やお茶などで十分な水分補給に努めてください。
- ・ **ト イ レ** …採血直後の排尿は、失神を起こすことがありますので座位で行ってください。
- ・ **階段、エレベーター** …できるだけ手すりにつかまってください。
- ・ **入 浴** …献血後2時間以内の入浴と当日のサウナは避けてください。
- ・ **飲 酒、喫 煙** …献血直後は避けてください。
- ・ **ス ポ ー ツ** …水泳、マラソンなど激しいスポーツは避けてください。
- ・ **重 労 働** …採血側の腕に強い力がかからないようにしてください。

献血会場を離れてからも、気分が悪くなったり、まれに“失神（一時的に意識をなくすこと）”を起こすことがあります！

- 電車のホームから転落などしないよう、線路から離れて電車をお待ちください。
気分不良・失神などは、じっと立っている時に発生しやすくなります。
 - 失神の前には、次のような症状が現れることがあります。
 - ・音が聞こえなくなってくる、耳がキーンとしてくる。
 - ・目の前がチカチカしてくる。
 - ・頭がボーっとしてくる。
 - ・気分がわるくなってくる。 等
 - 症状が現れたら、転倒を防止するためすぐにしゃがむか、横になってください。
 - ・仰向けになり、足を高くして30分程度安静にすると症状は和らぎます。
 - ・しゃがめない場合は、左右交互に足踏みをしたり、つま先立ちによる背伸び運動をすることにより、失神を防ぐことができる場合があります。
- ★献血後の腕の痛みなど何かで心配なことがあるときは、すぐに血液センターまでご連絡ください。

今一度、ご確認をお願いします！

6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがあった方は
ご連絡ください。

- ①不特定の異性または新たな異性との性的接触があった。
- ②男性どうしの性的接触があった。
- ③麻薬、覚せい剤を使用した。
- ④エイズ検査（HIV検査）の結果が陽性だった（6ヵ月以前も含む）。
- ⑤上記①～④に該当する人と性的接触をもった。

献血された血液は翌日には患者さんに使用されます。
輸血を受ける患者さんの安全のために上記①～⑤に該当する場合は

必ず本目种にお電話ください。

電話番号
無料 XXX-XXX-XXXX

あなたの採血番号 と生年月日を
あなたの声でお知らせください。

☆この電話は受信専用の録音電話です。プッシュボタンによる採血番号の入力はできません。

☆ ご連絡いただいた方の血液は使用いたしません。

☆エイズウイルス（HIV）の検査は各地域の保健所で無料・匿名で受けられます。

ご連絡いただいた方のプライバシーは確実に守られますので
ご安心ください。

血液センターでは、エイズ検査目的の献血はお断りしています。
保健所等のエイズウイルス（HIV）の検査については、下記のホームページをご参照願います。
エイズ予防財団ホームページ URL:<http://www.jfap.or.jp/>
HIV 検査・相談マップ URL:<http://www.hivkensa.com/>

検査成績のお知らせ

献血にご協力いただいた方への感謝の気持ちとして、7項目の生化学検査成績及び8項目の血球計数検査成績をお知らせしています。これらの検査成績はいずれも通知を希望された方を対象とし、献血後2週間程度^{*}で親展（書簡の郵便）にてお知らせします。生化学検査及び血球計数検査欄に記した基準値は、献血を希望された方々の検査結果から算定したもので、正常または異常を表すものではありません（グ

生化学検査

検査項目	説 明
ALT (GPT)	肝臓に最も多く含まれる酵素です。肝細胞が破壊されると血液中に流れ出すので、急性肝炎で最も強く上昇し、慢性肝炎や脂肪肝（肥満）などでも上昇します。激しい運動の後に一過性の上昇がみられることがあります。
γ-GTP	肝、胆道、膵、腎などに多く含まれる酵素です。上昇する疾患は閉塞性黄疸、肝炎、アルコール性肝障害などです。病気がなくても長期飲酒者では上昇することが多く1ヵ月位禁酒するとある程度正常化します。
総蛋白 TP	血清中には80種類以上の蛋白が含まれ、種々の機能を持ち、生命維持に大きな役割を果たします。その総量を総蛋白として測定しています。
アルブミン ALB	血清蛋白の50%以上を占めるアルブミンは、病気などで栄養が悪くなると減少するため、健康診断のスクリーニングとして大きな意味があります。
アルブミン対グロブリン比 A/G	血清蛋白はアルブミン（A）とグロブリン（G）に分けられ、その比率は健康な人では一定の範囲にありますが、病気によってはその比率が変化（主として減少）してきます。
コレステロール CHOL	血清脂質の一つで、一般に脂肪の多い食事を続けていると上昇します。また肝臓などで作られ、肝、胆道、腎、甲状腺の病気でその値が上下することがあります。血清コレステロールが多くなると動脈硬化を起こしやすいとされています。
グリコアルブミン GA	糖尿病の検査の一つです。過去約2週間の血糖値が低い状態が続いていると低下し、高い状態が続いていると上昇します。糖尿病では基準値より上昇します。基準値範囲内でも15.6%以上の場合は注意が必要です。

記念品の贈呈

日本赤十字社は、継続的に献血にご協力をいただいた方々への感謝の意を表するため、その功労に対して次の表（顕）彰を行っています。献血回数については、献血カードまたは献血手帳で確認しています。
※献血回数は、200mL献血・400mL献血・成分献血、全て1回です。

記念品



リコアルブミンを除く）。また、献血受付時に、B型肝炎検査、C型肝炎検査、E型肝炎検査、梅毒検査、HTLV-1抗体検査の結果通知を希望された方には、異常を認めた場合、献血後1ヵ月以内に上記の通知とは別に親展（書簡の郵便）にてご通知します。
※ラブラッド会員の方は2～5日後にWeb上でご確認いただけます。

血球計数検査

検査項目	説 明
赤血球数 (RBC)	赤血球は血液の主な細胞成分で、酸素を肺から各組織へ運ぶ働きを持っています。
ヘモグロビン濃度 (Hb)	血液の赤い色は赤血球に含まれるヘモグロビン（色素）によるもので、赤血球の働きの中心となっています。
ヘマトクリット値 (Ht)	ヘマトクリット値は一定の血液量に対する赤血球の割合（容積）をパーセントで表したものです。
平均赤血球容積 (MCV)	赤血球1個の平均的容積、すなわち赤血球の大きさの指標となるもので、赤血球数とヘマトクリット値から算出したものです。
平均赤血球ヘモグロビン量 (MCH)	赤血球1個に含まれるヘモグロビン量を平均的に表したもので、赤血球数とヘモグロビン濃度から算出したものです。
平均赤血球ヘモグロビン濃度 (MCHC)	赤血球の一定容積に対するヘモグロビン量の比をパーセントで表したもので、ヘモグロビン濃度とヘマトクリット値から算出したものです。
白血球数 (WBC)	白血球は細菌などを貪食し、免疫情報を伝達し、さらに免疫能を発現して生体防御にかかわっています。細菌感染症があると一般に白血球数は増加しますが、ウイルス感染症の場合はかえって減少することもあります。
血小板数 (PLT)	血小板は出血を止めるための重要な働きを持ち、この値が極端に減少すると出血を起こしやすいとなります。

献血者顕彰規程

(1) 献血10回に到達した方 (2) 献血30回に到達した方 (3) 献血50回に到達した方	選択制 記念品
(4) 献血200回到達者で 以後100回毎に到達した方 (5) 献血50回以上の献血者で 満60歳を迎えた後に献血をした方 (6) 献血50回以上の献血者で 満68歳を迎えた後に献血をした方	感謝状

表彰制度

献 血 者	有 功 章 銀色…献血回数70回以上（ガラス盃） 金色…献血回数100回以上 但し、旧制度により銀色（30回）又は金色（50回）有功章を受章していない方にのみ、上記献血回数に達した場合、贈呈させていただきます。
献血推進団体 献血団体 献血推進者	支部長感謝状 銀杯…活動年数5年以上 金杯…活動年数10年以上 有 功 章 銀色…活動年数15年以上（銅板桶） 金色…活動年数20年以上 感 謝 状 金色有功章受章後、10年ごと

患者さんが安心して治療を受けられるよう、安定的に血液製剤を供給するためには、献血血液をいつでも十分に確保しておく必要があります。日本赤十字社では、継続的に、献血にご協力いただける方を募集するため、平成18年に「複数回献血クラブ」を設立しました。
平成30年10月には、利用者の方へのサービス向上を目的としたリニューアルを行い、「複数回献血クラブ」の愛称名を「ラブラッド」に統一しましたので、ぜひ会員登録をお願いいたします。



会員になると

- 全国すべての献血ルームのWeb予約が可能になります
- ポイントを貯めて記念品と交換できます
- 血液の検査結果等を含む献血記録がいち早くわかります
- 過去の献血記録が確認できます（平成17年4月以降）
- 会員限定オリジナルデザインの献血カードに交換できます
- メールやLINEで会員限定のお知らせやご案内、献血の依頼等が届きます（次回献血可能日、イベント、キャンペーン情報、「献血のお願い」など）

会員登録の条件

- 献血者コードをお持ちの方（ただし平成25年10月以降に献血歴がある方）
- 受付時の質問（「血液センターから必要に応じて献血協力をお願いをしてよろしいでしょうか」）に「はい」と回答されている方
- インターネットに接続できるPCまたはタブレット・スマートフォンをお持ちで、メールアドレスをお持ちの方（以下の条件を満たす必要があります）
- JavaScriptが動作すること
- Cookieが使用可能なこと
- TLS 1.2 に対応していること



会員登録はこちら

<https://www.kenketsu.jp/>

日本赤十字社の安全性に関する取り組み

輸血用血液製剤および血漿分画製剤用原料血漿に対し、現時点で可能な限りの安全対策を行っています。

- 1.本人確認** 安全で責任ある献血をお願いするために、献血受付時にご自身を証明できるものの提示を求める本人確認を実施しています。
- 2.問診** 質問の回答内容、ヘモグロビン濃度、血圧などをもとに、献血される方の健康状態を確認しています。
- 3.血清学的検査** 各種病原体についての抗原・抗体検査などを実施しています。
- 4.検体保管** 1996年9月採血分から全献血血液の検体保管（採血後11年間）を行っています。献血後情報の発生時および医療機関から輸血後の副作用・感染症報告等があった場合に、再検査ができるように冷凍保管しています。
- 5.核酸増幅検査(NAT)** 1999年（平成11年）から、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エイズウイルス（HIV）について核酸増幅検査（NAT）を実施しています。2020年（令和2年）8月からはE型肝炎ウイルスについても実施しています。NATは、ウイルスの遺伝子を構成する核酸（DNAまたはRNA）の一部を約1億倍に増幅することによってウイルス自体を高感度に検出する検査方法です。
- 6.貯留保管** 輸血用血液製剤のうち血漿製剤については、180日間以上の貯留保管を行い、その間にウイルス感染などが判明した血液製剤を排除しています。
また、血漿分画製剤用原料血漿についても、国内製薬企業の安全対策とあわせ、一定期間の貯留保管を行っています。

安全性の高い血液の迅速な供給に努めています

検査

献血いただいた血液は、血液型の検査やエイズなどの感染症について輸血を受ける患者さんに感染させないための病原体の検査（抗原・抗体検査や病原体の遺伝子を検査する核酸増幅検査）を行い、陽性となった場合は、血液製剤には

使用しません。また、献血にご協力いただいた方の健康管理に役立つように肝機能検査などの生化学検査を行い、その結果についてお知らせをしています。



血液型検査



感染症・生化学検査

各種検査項目

- 血液型検査：ABO血液型検査、Rh血液型検査、不規則抗体検査、HLA検査（一部）
- 感染症検査：梅毒血清学的検査、B型肝炎ウイルス検査（HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体）、C型肝炎ウイルス検査（HCV抗体）、エイズウイルス検査（HIV-1、2抗体）、HTLV-1抗体検査、ヒトパルボウイルスB19抗原検査
- 生化学検査
- 血球計数検査
- 核酸増幅検査：B型肝炎ウイルス検査、C型肝炎ウイルス検査、E型肝炎ウイルス検査、エイズウイルス検査



核酸増幅検査(NAT)について

抗原・抗体検査はウイルスなどに感染した後、血液中に産生される抗原や抗体を検出する方法であるため、感染後しばらくは、感染していることを検査で検出できない期間（ウィンドウ・ピリオド）があります。核酸増幅検査（NAT）は、抗原や抗体ではなくウイルスを構成する核酸（DNAまたはRNA）の一部を約1億倍に増幅してウイルスの有無を検出するため、非常に感度と特異性が高く、ウィンドウ・ピリオドの短縮を可能にします。日本赤十字社では、1999年（平成11年）から血液の安全性向上を図るために、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エイズウイルス（HIV）についてNATを導入しています。さらに2014年（平成26年）から、さらなる安全性の向上を目的に個別検体によるNATを導入しました。また、2020年（令和2年）8月からはE型肝炎ウイルスのNATも導入しました。

製剤

現在の輸血医療は、必要な成分（赤血球、血漿、血小板）のみを輸血する成分輸血が主流であるため、全血献血による血液は、赤血球、血漿に分離し、同様に成分献血による血液も必要に応じて血漿、血小板に分離を行います。分離後

は、検査に合格した血液のみが輸血用血液製剤、血漿分画製剤用原料となります。また、放射線照射輸血用血液製剤は、輸血後GVHD^{*}を予防するために放射線が照射された製剤です。



白血球除去



遠心分離



放射線照射装置

※輸血後GVHD（Post Transfusion Graft Versus Host Disease：輸血後移植片対宿主病）は、輸血した血液の細胞（移植片）が患者さん（宿主）の体内で生着・増殖し、その細胞が患者さんの細胞を「異物」として攻撃する、致死率の高い病気です。

保管・供給

輸血用血液製剤は、医療機関からの発注があるまで専用冷蔵庫や専用冷凍庫などにより各製剤に最適な条件下で保管されます。輸血用血液製剤の種類別・血液型別の過不足の調整や、Rh（一）の血液型やまれな血液型への対応など、す

べての医療機関に安定的に血液製剤をお届けするため、全国を7つのブロックに分けた需給管理体制を構築し、合理的・効率的な供給に努めています。

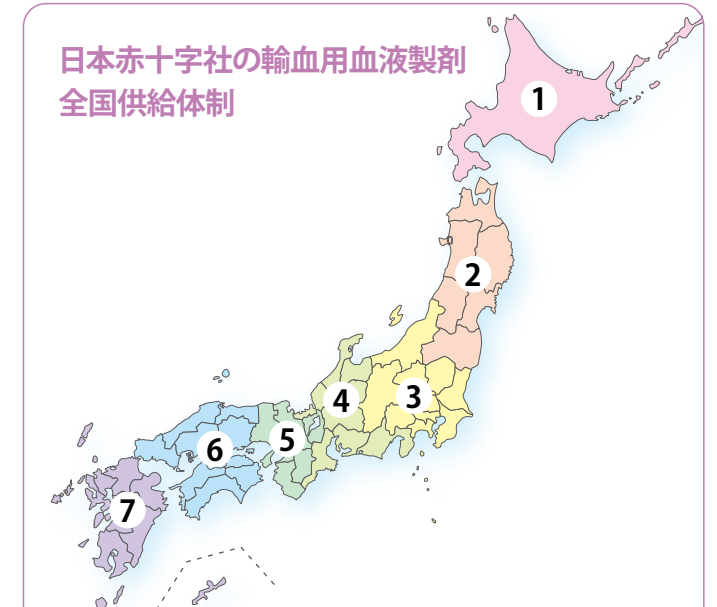


冷凍・冷蔵保管庫



献血運搬車

日本赤十字社の輸血用血液製剤 全国供給体制



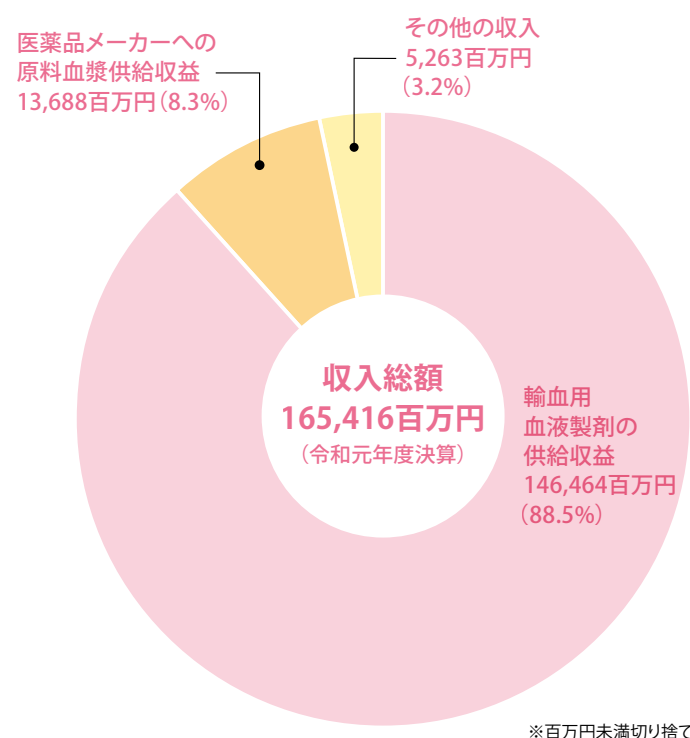
日本赤十字社では全国に102の供給施設と774台の献血運搬車を配備して（2020年11月末現在）、365日、24時間、供給できる体制にあります。

血液事業の運営費用は公的医療保険 でまかなわれています

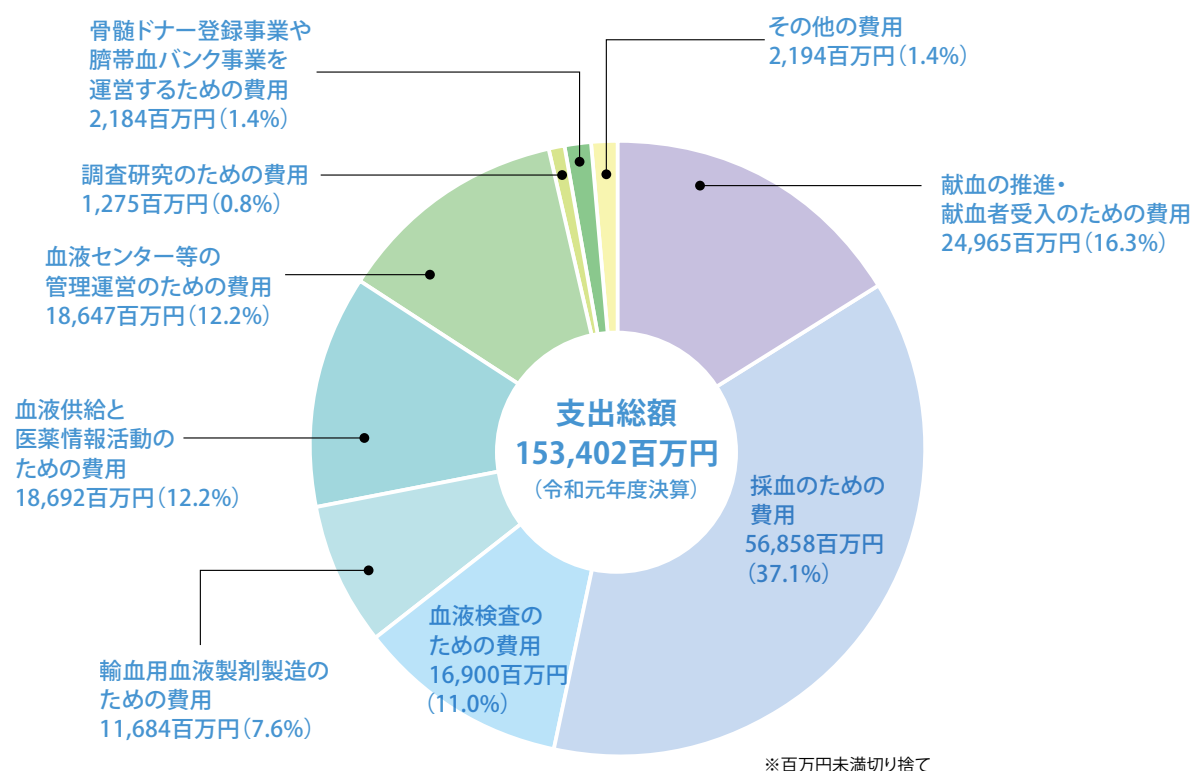
血液事業の運営について

献血血液が輸血を必要とする患者さんのもとへ届けられるまでには、献血会場（献血ルーム、献血バスなど）の設備、献血に使用する採血針や血液バッグなどの器具、血液の検査・製品化、医療機関への供給など多くの費用がかかります。血液事業は、献血の受け入れから患者さんに血液をお届けするまでの費用については国で定められた対価（薬価）を医療機関からいただいております、主にこの収入で運営をまかなっています。

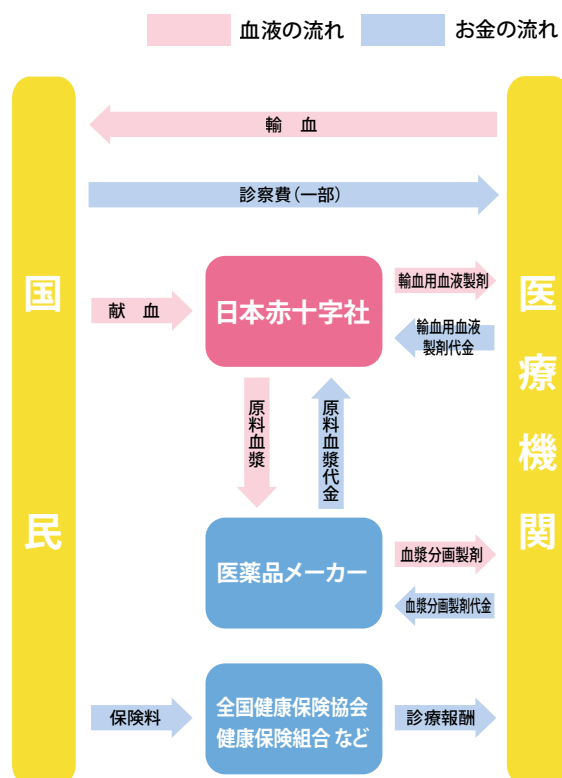
血液事業の収入



血液事業の支出



血液事業におけるお金の流れ



輸血用血液製剤の供給収益 (146,464 百万円)

令和元年度においては約493万人のみなさまに献血へのご協力をいただき、約1,748万本(200mL献血換算)の輸血用血液製剤を必要とする患者さんにお届けしました。

医薬品メーカーへの原料血漿供給収益 (13,688 百万円)

国の指示・指導により、一般社団法人日本血液製剤機構、KMバイオロジクス株式会社及び日本製薬株式会社に血漿分画製剤用原料血漿を送付しています。令和元年度には、約1,200,118Lの血漿を送付しました。これは、献血による血漿分画製剤の国内自給が目的であり、日本赤十字社が利益を得るためではありません。

その他の収入 (5,263 百万円)

国や地方自治体からの補助金、個人や団体からの寄付金、受取利息及び臍帯血供給収益などです。

献血の推進・献血者受入のための費用 (24,965 百万円)

みなさまに献血へのご協力をいただくためのパンフレット、ポスター作製などの広報活動、市町村や献血協力団体などへの渉外活動、献血ルームの運営、献血バスの運行、献血会場での受付・接遇を行う事務などの職員にかかる費用です。

採血のための費用 (56,858 百万円)

献血をしていただく際に使用する血液バッグ、成分献血の採血キット、採血針などの器具、消毒用アルコールや生理食塩水などの薬品、成分採血装置などの機器、問診や採血を行う医師、看護師などの職員にかかる費用です。

血液検査のための費用 (16,900 百万円)

血液の安全性を高めるため、B型肝炎、C型肝炎、エイズなどのウイルス検査や、血液型の検査、肝機能の検査などさまざまな検査を行っており、これらに必要な薬品、検査機器、検査を行う臨床検査技師などの職員にかかる費用です。

輸血用血液製剤製造のための費用 (11,684 百万円)

現在では赤血球や血小板など患者さんが特に必要とする成分だけを輸血する方法が主流であり、200mL献血や400mL献血では、採血した血液を遠心分離して成分ごとに輸血用血液製剤を製造しています。そのために必要な遠心分離機や保管用の冷蔵庫・冷凍庫、分離調製作業を行う薬剤師などの職員にかかる費用です。

血液供給と医薬情報活動のための費用 (18,692 百万円)

全国にある医療機関に24時間体制で輸血用血液製剤の供給を行っています。これを支える緊急走行可能な献血運搬車の整備、医療機関からの受注に応えるための職員体制、輸血用血液製剤などに関する情報を的確かつ迅速に提供する医薬情報活動、血液保管用の冷蔵庫・冷凍庫などにかかる費用です。

血液センター等の管理運営のための費用 (18,647 百万円)

全国にある血液センターを円滑に管理運営するための人件費及び通信費など、血液センターの運営にかかる共通の費用です。

調査・研究のための費用 (1,275 百万円)

輸血用血液製剤の安全性を一層向上させるため、新たな検査法の開発、ウイルスの除去・不活化などの調査・研究を進めており、これらに必要な機器、薬品、研究者などにかかる費用です。

骨髄ドナー登録事業や臍帯血バンク事業を運営するための費用 (2,184 百万円)

骨髄提供希望者の受付や検体の検査などにかかる費用と臍帯血の受入・保存・調製及び医療機関へ供給するための費用、並びに臍帯血保管用の冷蔵庫・冷凍庫の管理・保守などにかかる費用です。

その他の費用 (2,194 百万円)

施設・設備を整備するために借り入れた借入金の利息を支払う費用や老朽化した建物などの固定資産を処分した際にかかる費用などです。

献血に関する疑問にお答えします

Q1 献血を赤十字が行っているのはなぜですか？

我が国の血液事業は、買（売）血方式から始まりました。その後、献血も始まりましたが、商業血液銀行の発展が目覚ましく、買血による輸血用血液は質が低く、輸血後の肝炎の続発、頻回売血者の健康悪化が問題となりました。また、肉体の一部である血液を売買して営利の対象としていたために、血液事業の在り方が社会の批判を浴びるところとなりました。このことから、政府は倫理面と安全性の確保の面から売血依存の弊害を避け、血液事業の正常化を図るため、1964年（昭和39年）8月の閣議で輸血用血液製剤は献血によって確保することを決定しました。その結果、国や地方公共団体は、献血思想の普及と献血者の組織化を図り、日本赤十字社は献血の受入れを行うこととなり、現在にいたっています。日本赤十字社および各国赤十字は、人間の尊厳を守るため、無償の原則に基づき血液事業を推進することが大切だと考えています。

Q2 血液は十分足りているのでしょうか？

献血のご協力には季節的な変動があるため、一時的に献血者が減少することがあります（10頁参照）。また、大量使用などによる血液型別の偏りが生じることがあります。血液は長期保存ができないため、特に献血者が減少する時期のご協力をお願いします。現在、輸血用血液製剤は、すべて国内の献血によってまかなわれていますが、血漿分画製剤については、一部輸入に頼っており、国内自給率は、免疫グロブリン製剤については91.5%、アルブミン製剤については64.1%となっています。（令和元年度）

Q3 献血の際に、病気に感染することはないのですか？

献血に使用する採血針などの器具は、すべて滅菌済みの新品で一度しか使いませんので、病気に感染する心配は全くありません。安心してご協力いただけます。

Q4 血液が回復するまでの期間はどれ位ですか？

献血後の日常生活への影響は、献血いただく血液の量は血管の中を流れている血液量（循環血液）の15%以下なので、ほとんどありません。血小板成分献血の場合は、体内の約10～20%の血小板を採取しますが、血小板は常に再生産され、1週間程度で元に戻ります。血漿成分献血の場合も1週間程度で元に戻ります。通常200mL献血の場合、赤血球は約2～3週間で回復し、400mL献血の場合は、約3～4週間で回復するといわれています。女性は赤血球の回復が遅れることもありますので、年間の献血量が男性より少なく設定されています。

Q5 ピアスをしていると献血できませんか？

医療機関などで、あるいは使い捨ての器具で穴をあけた方は、穴をあけた場所の状態にもよりますが、細菌などに感染している危険性があると判断し、最低1ヵ月間献血をご遠慮いただいています。その他の場合

（友人同士などで安全ピンや針を共用して穴をあけた方など）は、エイズ、B型肝炎およびC型肝炎などのウイルスが血液を介して感染している可能性を考慮して、6ヵ月間献血をご遠慮いただいています。

Q6 検査で病気がわかりますか？

献血の申し込み時にB型肝炎、C型肝炎、E型肝炎、梅毒、HTLV-1抗体の検査結果を希望された方は、異常を認めた場合にのみお知らせします。ただし、各種ウイルスには検出不可能な期間があることから、これら検査結果を知ることを目的とした献血は固くお断りします。なお、献血にご協力いただいた方々への感謝の気持ちとして、生化学検査成績及び血球計数検査成績についてお知らせしています。これらの検査成績はいずれも通知を希望された方を対象とし、献血後にご通知します。なお、生化学検査及び血球計数検査欄に記した標準値は、献血を希望された方々の検査結果から算定したもので、正常または異常を表すものではありません（グリコアルブミンを除く）。

Q7 献血でエイズ検査（HIV検査）の結果はわかりますか？

献血でのエイズ検査（HIV検査）結果についてはお知らせしていません。各種ウイルスには、世界に先駆けて導入している感度の高い核酸増幅検査（NAT）をもってしても検出不可能な期間があります。ウイルスに感染した血液が検査をすり抜け、輸血に使用されると、患者さんをはじめ患者さんのご家族、医療機関など、多くの方々に深い悲しみと深刻な状況をもたらします。このために、検査目的の献血を固くお断りすると共に、献血前の質問事項に正しく回答していただくようお願いしています。

※エイズ検査（HIV検査）を希望される方は、**無料・匿名で検査できる保健所**などで受けていただくをお願いします。

【参考】保健所等のエイズウイルス（HIV）の検査については、下記のホームページをご参照願います。
エイズ予防情報ネット <https://api-net.jfap.or.jp/>
HIV検査・相談マップ <https://www.hivkensa.com/>

Q8 輸血に使用出来なかった血液は、どうなっているのですか？

各種検査で輸血用血液製剤及び血漿分画製剤用の原料としての基準を満たさない血液、輸血用血液製剤で有効期間を過ぎ血漿分画製剤用の原料としても使用できない血液、検査に用いた検体の残りなどは、日本赤十字社が輸血の有効性・安全性及び検査サービスの向上を目的とした研究や安全な輸血のための検査試薬製造などに使用させていただくことがあります。その一部は、研究目的で使用されており、公平性を担保したうえで外部研究機関等へも献血血液の譲渡という形で提供します。平成25年度からは国が示した「献血血液等の研究開発等への使用に関する指針」に基づき対応してきました。令和2年9月からは、血液法が一部改正されたことに伴い、日本赤十字社の責務のもと運用を規定し、引き続き公平性を担保したうえで有効活用に努めているところで。しかし、上記以外の血液は感染性の医療廃棄物として適切な管理のもと廃棄しています。

Q9 薬を服用していると、献血はできないのですか？

病気の種類や薬の種類によって献血をご遠慮いただくことがあります。しかし、ビタミン剤及びごく一般的な胃腸薬などについては、内服していても特に支障のない薬です。また、医師による処方が必要な薬の服用は、献血者が治療中であると考えられるため、献血者自身の健康を考慮し、献血をご遠慮いただく場合があります。外用薬、坐薬、点眼または点鼻薬などについても、その内容により献血をご遠慮いただく場合があります。

Q10 外国滞在歴があると、献血はできないのですか？

輸血を媒介して感染が危惧される疾患（ウイルス感染症など）によるリスクを軽減するため、海外からの帰国日（入国日）当日から4週間以内の方の献血は、ご遠慮いただいています。また、帰国後4週間以内に発熱などの症状があった方は、症状がなくなってから4週間は献血をご遠慮いただいています。血液を介して感染する原虫疾患のマラリアなどが流行している国・地域を滞在（居住）された方は帰国後1年間、1年を超える長期の滞在（居住）をした方は帰国後3年間、マラリア原虫が血液中に残存している可能性があるため、献血をご遠慮いただいています。ただし、感染の可能性はないと判断した場合であれば、献血が可能となる場合があります（1ヵ月以内の都市滞在（居住）などですが、都市・リゾート地であっても、滞在（居住）期間に関わらずご遠慮いただく場所もあります）。また、以前、英国を中心に発生した変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）については、輸血による伝播に関して未知の部分が多い一方、牛海綿状脳症（BSE）との関連も強く指摘されていることから、下記に該当される方は、安全が確認されるまでの間献血をご遠慮いただいています。

- 英国に1980年（昭和55年）から1996年（平成8年）までに通算1ヵ月（31日）以上の滞在（居住）歴のある方。
- 英国に1997年（平成9年）から2004年（平成16年）までに通算6ヵ月以上の滞在（居住）歴のある方（通算6ヵ月の計算には（1）の滞在（居住）歴も含みます）。
- アイルランド、イタリア、オランダ、スペイン、ドイツ、フランス、ベルギー、ポルトガル、サウジアラビアに、1980年（昭和55年）から2004年（平成16年）までに通算6ヵ月以上の滞在（居住）歴のある方（通算6ヵ月の計算には（1）（2）（4）の滞在（居住）歴も含みます）。
- スイスに、1980年（昭和55年）から今日までに通算6ヵ月以上の滞在（居住）歴がある方（通算6ヵ月の計算には（1）（2）（3）の滞在（居住）歴も含みます）。
- オーストリア、ギリシャ、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ルクセンブルクに、1980年（昭和55年）から2004年（平成16年）までに通算5年以上の滞在（居住）歴のある方（通算5年の計算には（1）（2）（3）（4）（6）の滞在（居住）歴も含みます）。
- アイスランド、アルバニア、アンドラ、クロアチア、サンマリノ、スロバキア、スロベニア、セルビア（2008年に分離独立した「コソボ」含む）、モンテネグロ、チェコ、バチカン、ハンガリー、ブルガリア、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア、マルタ、モナコ、ノルウェー、リヒテンシュタイン、ルーマニアに1980年（昭和55年）から今日までに通算5年以上の滞在（居住）歴がある方（通算5年の計算には（1）（2）（3）（4）（5）の滞在（居住）歴も含みます）。

Q11 献血すると記念品がもらえるのですか？

日本赤十字社は、献血者の善意に報いるため、わが国の社会通念の中で感謝の気持ちを表す品を、献血の記念品として提供しています。2002年（平成14年）8月31日に、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」（血液法）において有料での採血などを禁止する部分と、その罰則にかかる部分が施行されました。日本赤十字社としては、有料採血禁止規定の施行に伴い、国内はもとより海外の分画製剤製造業者の団体「血漿

たん白製剤協会（PPTA）」などから、日本における献血者の無償の善意を傷つけられたり、無償ということにいささかなりとも疑われることがあってはならないため、今後、売血ともとられかねない処遇や、物品の提供により、国内の献血者の貴い気持ちが悪つけられるような行為は、一切行わないことといたしました。

Q12 血液事業の財政基盤を教えてください。

献血血液が輸血を必要とする患者さんのもとへ届けられるまでには、献血施設（献血ルーム、献血バスなど）の設備、献血に使用する採血針や血液バッグなどの器具、血液の検査・製剤、医療機関への供給など多くの費用がかかります。血液事業は、献血の受入れから患者さんに血液をお届けするまでの費用について国で定められた対価（薬価）を医療機関からいただいております。主にこの収入で運営をまかなっています。また、国の指示・指導により国内製薬企業へ血漿分画製剤用原料血漿を引き渡して得ている収入は、薬価収入とあわせて血液事業の運営に充てられています。これは、献血による血漿分画製剤の国内自給が目的であり、日本赤十字社が利益を得るためではありません。詳しくは17頁「血液事業の運営について」をご覧ください。

Q13 なぜ、400mL献血、血小板成分献血を勧められるのですか？

輸血を受ける患者さんにとって、200mL献血に比べ、400mL献血や成分献血由来の血液を輸血した場合、副作用（発熱、発疹など）発生の可能性が低くなり安全性が向上します。例えば、800mLの輸血を行う場合、200mL献血由来の血液では4人分必要ですが、400mL献血由来では2人分で済むため、輸血による副作用の発生確率が2分の1となります（6頁参照）。また、成分献血から得られる血小板製剤は採血後の有効期間が採血後4日間と短く、主に白血病やがん、血小板減少症などの血液疾患に多く使用されていますが、血小板輸血を必要とする患者さんは増加傾向にあります。このようなことから、医療機関からの400mL献血由来の血液製剤や血小板製剤の需要が増えているため、400mL献血や成分献血が可能の方（10頁参照）には、400mL献血、血小板成分献血を積極的に勧めています。

Q14 骨髄バンクに登録したいのですが。

ドナー登録を希望される場合は、ドナー登録のしおり「チャンス」をお読みいただき、骨髄・末梢血幹細胞の提供について正しく理解していただいたうえで、最寄りの登録窓口へお越しください。登録窓口の情報は「チャンス」の巻末もしくは造血幹細胞移植情報サービスのホームページ <https://www.bs.jrc.or.jp/bmdc/> でご覧いただけます。また、「チャンス」の入手方法、ドナー登録に際しての質問点などについては、（公財）日本骨髄バンクにお問い合わせください。

【お問い合わせ先】
（公財）日本骨髄バンク
東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F
TEL 03-5280-1789
<https://www.jmdp.or.jp/>

※日本赤十字社は、造血幹細胞提供支援機関として骨髄バンクの活動をサポートしています。

限りなく安全性の高い血液製剤を目指して

■1952年(昭和27年)

日本赤十字社血液銀行東京業務所が開設され、血液事業がスタート。

■1955年(昭和30年)

民間商業血液銀行による買(売)血が盛んになり、献血者が激減。

■1960年(昭和35年)

「血液事業に対する正しい理解や認識の普及と献血者・預血者並びに献血予約者の確保」を目標に厚生省との共催により全国的規模の第1回「赤十字愛の献血運動」を展開。

■1961年(昭和36年)

- 日本赤十字社輸血研究所に日赤移動採血車第1号が配備され、同年9月1日から運行を開始。

■1962年(昭和37年)

「黄色い血」追放キャンペーンが起き、血液事業改善への第一歩がはじまる。
※売血常習者の血液は、たび重なる売血行為により、血球部分が少なく黄色い血漿部分が目立ち、「黄色い血」と呼ばれた。この血液は、輸血しても効果がないばかりか、輸血後肝炎などの副作用を起こしがちで、このため売血が大きな社会問題となった。
・現在の全国学生献血推進実行委員会の前身となる「日本赤十字社献血学生連盟」が、売血の追放などを目指すことを掲げ結成。

■1964年(昭和39年)

- ライシャワー駐日米大使が暴漢に襲われ重傷を負い手術を受けた際、輸血の副作用によって血清肝炎を発症するに至り、これが買(売)血由来の血液であったことから大きな社会的反響を呼び起すこととなった。
- 政府は、輸血用血液は献血により確保する体制を確立するよう閣議で決定。

■1969年(昭和44年)

民間商業血液銀行は、買血による輸血用血液の供給を中止。

■1974年(昭和49年)

民間商業血液銀行が預血制度を廃止したことにより、輸血用血液製剤はすべて献血で確保する体制が確立。

■1975年(昭和50年)

日本民間放送連盟主催による「第1回はたちの献血」ラジオキャンペーン開始。

■1980年(昭和55年)

成分輸血療法が全国的に普及したことにより、各種成分に分けられた輸血用血液製剤の割合が全供給本数の70%以上となり、飛躍的な増加を示した。

■1982年(昭和57年)

献血者全員に対する生化学検査の通知を開始。献血手帳の供給欄が削除され「血液無償の原則」に基づく純粋な献血制度に転換。

■1983年(昭和58年)

北海道千歳市に血漿分画製剤の本格的な製造施設である日本赤十字社血漿分画センターを設立し、製造を開始。

■1986年(昭和61年)

- 400mL献血、成分献血が導入される。輸血による感染が問題となっていたエイズウイルスやHTLV-1の抗体検査を開始。
- 400mL献血及び成分献血の献血者に対して血球計数検査成績の通知を開始。

■1989年(平成元年)

輸血後肝炎のC型肝炎について、検査法が確立したことから、世界に先んじて全献血血液に対し検査(HCV抗体検査)を開始。B型肝炎のための検査も、従来のHBs抗原検査に加えてHbc抗体検査を開始。

■1990年(平成2年)

民間製薬会社による国内での有償採漿を中止。

■1991年(平成3年)

献血者の安全性を十分確認し、より多くの献血者の善意が活かされるよう、国により献血の基準が変更される。

■1992年(平成4年)

献血血液を由来とした血液凝固第Ⅷ因子製剤の供給を開始。

■1993年(平成5年)

「自己血輸血協力要綱」を作成し、医療機関の要請に応じた自己血輸血に対する協力を開始。

■1994年(平成6年)

エイズウイルスの輸血による感染を防止するため、HIV-2の抗体検査を開始。

■1995年(平成7年)

- 新たな献血功労制度の運用を開始。さらに、積極的かつ継続的な献血協力に対する謝意を表するものとして、献血者顕彰規程を新設。
- 全国的に問診票を変更するとともに、問診の充実を図った。

■1998年(平成10年)

輸血後GVHD(移植片対宿主病)を予防することを目的とした輸血用血液の放射線照射については、1994年から医療機関の要請に応じて照射協力を行っていたが、放射線照射輸血用血液製剤が国に認可され供給を開始。

■1999年(平成11年)

- 深刻化する少子高齢社会に備え、4月1日から献血可能年齢の上限を条件付きで64歳から69歳に引き上げ。
- 1998年7月の中央薬事審議会血液製剤特別部会における検討の結果、HTLV-1抗体検査で異常を認めた場合に希望される方への通知を開始。
- 10月に世界最高水準である抗原抗体検査に加え、一層の安全性向上を目指し、世界に先んじて核酸増幅検査(NAT)をB型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、エイズウイルス(HIV)に対して開始。

■2000年(平成12年)

輸血用血液製剤及び血漿分画製剤の安全性確保を目的として、核酸増幅検査(NAT)に加え、血漿分画製剤用原料血漿の貯留保管と献血検体の保管を行う最先端設備を備えた血液管理センターを京都府福知山市に竣工。

■2001年(平成13年)

効率的な事業運営を行うため日本赤十字社中央血液センターの採血・検査・製剤・供給の業務を、東京都内の事業の一体化・集約化により東京都赤十字血液センターに移管。

■2002年(平成14年)

全ての血液製剤の献血による国内自給を基本理念とした「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(血液法)と、薬事法(現「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」)の一部を改正した法案が7月25日に成立し公布された。これにより、初めて、血液事業が法的根拠に基づいた事業としてスタートする。また8月には、有料での採血などを禁止する部分と、その罰則にかかる部分が施行された。

■2003年(平成15年)

- ウエストナイル熱などの輸入感染症対策のため、3月28日から帰国後3週間経過していない方への献血制限を実施。
- 7月30日に「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」(血液法)が施行された。

■2004年(平成16年)

- ウエストナイル熱などの輸入感染症対策のため、8月1日から海外渡航者に対する帰国後の献血制限期間を4週間に延長。

- 血液製剤の安全対策の充実強化に向けて、血液事業に関する権限と責任を明確にするとともに、あらゆる事態に機動的に対応できる組織体制を構築するため、10月1日に日本赤十字社内血液事業本部を設置。
- 10月1日から、検査目的の献血を防止するための対策の一環として、献血受付時にご自身を証明できるものの提示を求める「本人確認」を開始。
- 10月から血小板製剤の保存前白血球除去を開始。

■2005年(平成17年)

- 血液製剤による変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の伝播の防止に最大限努めつつ、一方で、vCJD対策の献血制限が国民の医療に支障を来さないよう国とも連携し、献血の推進などを図ることを目的とし、日本赤十字社内に社長を本部長とする献血推進本部を設置。
- 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の症例について、新たな安全性に関する情報が得られるまでの当分の間、1980年(昭和55年)から1996年(平成8年)の間に1日(1泊)以上の英国滞在歴を有する方等からの献血制限を実施。

■2006年(平成18年)

- 3月から成分献血由来の新鮮凍結血漿の保存前白血球除去を開始。
- 10月1日から献血カードを全国で導入。
- 10月から血小板製剤の初流血除去実施を開始。
- 献血によって皮下出血や神経損傷などの健康被害(採血副作用)が生じ、医療機関を受診した献血者に対して、一定額を補償する献血者健康被害救済制度を開始。
- 複数回献血(年2回以上の献血)を推進し安定的な需給体制を構築することを目的として、各血液センターにおいて複数回献血クラブを設置・運営することとし、クラブ会員を対象に電子メール等による献血関連の情報提供や健康相談事業を開始。

■2007年(平成19年)

- 1月から全血献血由来の血液製剤の保存前白血球除去、初流血除去を開始。
- 11月14日供給の血小板製剤から、有効期間を「採血後72時間以内」から「採血後4日間」に延長。

■2008年(平成20年)

- 1月から成分献血由来の新鮮凍結血漿の初流血除去を開始。
- 日本赤十字社九州血液センターを新設。
- 今後の血液事業は、より安全性の高い血液製剤の製造と安定した供給体制の確立を求められていることから、新しい高度な検査機器を導入して、1月から九州・沖縄8県の献血された血液の検査業務を開始し、3月からは、九州7県で献血された血液を各県の枠組みを超えて九州血液センターに集め、血液製剤を製造。
- 12月から日本赤十字社九州血液センターでNATを開始。

■2009年(平成21年)

3月14日から検査成績通知票に糖尿病関連の項目(グリコアルブミン検査)を追加。

■2010年(平成22年)

- 変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)対策の献血制限について、輸血用血液製剤の安全性や安定供給などに及ぼす影響を検討した結果、1980年(昭和55年)から1996年(平成8年)の間の英国滞在歴が通算30日までの方の献血を可能とするよう、1月27日から緩和。
- 12月28日から200mL献血の協力者に対しても、血球計数検査成績の通知を開始。

■2011年(平成23年)

- 4月1日から採血基準が一部改正され、男性の400mL献血の献血可能年齢の下限が18歳から17歳に引き下げられるとともに、男性の血小板成分献血の献血可能年齢の上限が54歳から69歳に引き上げられた。
- 問診票の質問事項を、14項目から23項目に改訂。

- 複数回献血クラブ会員の会員特典として、複数回献血クラブ会員専用の新たな献血カードを導入。

■2012年(平成24年)

- 4月1日から、全国を7つのブロック単位で運営する広域事業運営体制を開始。
- 10月1日から日本赤十字社と田辺三菱製薬株式会社が持つ血漿分画事業を統合して設立した、一般社団法人日本血液製剤機構が事業を開始。
- 10月15日からシャーガス病に対する安全対策として、献血時の問診で中南米滞在歴等があると申告された献血者の血液は、血漿分画製剤の原料血漿として活用することとした。

■2013年(平成25年)

- 9月3日から成分献血由来の新鮮凍結血漿の容量を450mLから480mLに変更。3つの製剤規格の容量を整数倍へ(120mL、240mL、480mL)。
- 10月に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律(平成24年9月12日成立)」に定められる造血幹細胞提供支援機関の指定を受ける。

■2014年(平成26年)

- 4月1日に厚生労働大臣から臍帯血供給事業の許可を受ける。
- 5月から血液事業情報システムを導入。
- 8月1日から献血者1人分の血液ごとに核酸増幅検査を実施する個別NATを導入。

■2015年(平成27年)

- 3月31日に日本赤十字社による血漿分画製剤の販売が終了。
- 12月21日から安全で責任ある献血のさらなる推進を図るため、モバイル端末の電話番号画面の提示をお願いする本人確認手順を追加。

■2016年(平成28年)

- 8月22日からシャーガス病に対する安全対策として、献血時の問診で中南米滞在歴等があると申告された献血者の血液についてT.cruzi抗体検査を導入。
- 9月13日から洗浄血小板製剤の供給を開始したことにより、医療機関の要請に応じた洗浄血小板の技術協力を中止。

■2017年(平成29年)

4月1日から血小板成分献血の採血量の上限を600mLに変更。

■2018年(平成30年)

- 4月1日から採血不適者の要件である総採血量及び総回数の算定期間を「過去1年間」から「過去52週間」に改めた。
- 4月1日から時代に即した本人確認区分及び運用方法を見直し、本人確認の重要項目を「顔写真」、「氏名」及び「生年月日」と定めた。
- 10月29日から複数回献血クラブの会員サイトを一新し、愛称を「ラブラッド」に統一して運用を開始。

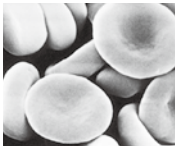
■2020年(令和2年)

- 4月7日に、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、全国に緊急事態宣言が発出される。「緊急事態宣言下でも献血は必要です」として継続した献血を呼びかけ。
- 4月22日に、地域、日時を限定して「新型コロナウイルスの抗体検査キットの評価に関する研究」への参加協力をお願いを開始。
- 8月5日採血分から、全国一斉にE型肝炎検査(HEV NAT)を導入。
- 9月1日の血液法改正に伴い健康診断及び問診の方法が定められ、健康診断基準として血圧、脈拍、体温の基準が示される。
- 9月1日から全血採血の採血前検査方法を指先穿刺に変更。※献血ルームは順次。
- 11月1日に献血者顕彰規程を改正し、記念品贈呈を行う献血回数や記念品の選択制を導入。
- 11月4日に問診における癌の問診判断基準を緩和し、がん薬物療法、放射線療法、がん免疫療法等の治療を受けていても、治療終了後、再発なく5年経過すれば献血可となる。

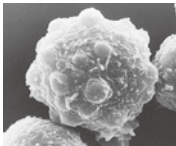
血液は人の生命を維持する大切な役割

人体に必要な要素である酸素やホルモンを運ぶ大切な役割を果たしているのが、体内に流れている温かい血液です。血液と抗凝固剤を試験管に入れしばらく放置すると2つの層に分かれます。上層に浮かんでくる液体が血漿で、栄養分を各組織に運んだり、組織呼吸の結果できた炭酸ガスや老廃物を排出したりす

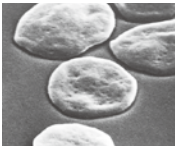
血液の組成



赤血球
(大きさ約8μm)



異物を貪食している白血球
(大きさ約6〜14μm)



血小板
(大きさ約2〜3μm)

※1μm=1/1,000mm

血漿(液体成分)

性状

約90%は水分で、固形成分は約10%。固形成分の主なものは血液凝固因子、グロブリン、アルブミンなどのたん白質です。その他、無機塩類、糖質、脂質を含みます。

血球(有形成分)

■赤血球

性状

成人では血液1μLに男性で約500万個、女性で約450万個、幼児約690万個。寿命は、骨髄でつくられて脾臓で壊されるまでの約120日間です。

働き

赤血球の中にあるヘモグロビンは、肺で酸素を取り込み、体の各部へ運搬します。

■血小板

性状

血液1μLに約14〜36万個。大きさは直径約2〜3μmで円盤状です。

働き

血管の損傷部位に血栓をつくり止血する作用をもっています。

働き

組織呼吸の結果できた炭酸ガスを肺へ運び、空気中へ放出します。また、栄養分を体内の各組織へ運び、そこで生じた代謝老廃物を腎臓から排出したり、血圧の保持に役立ったりしています。

■白血球

性状

成人では血液1μLに平均7,500個。顆粒球、単球及びリンパ球からなり、前者二つは骨髄で、後者は主としてリンパ組織で産生されます。

働き

顆粒球は細菌その他の異物が侵入した時、貪食作用によりこれらを捕らえ、消化・殺菌・溶解させるなど生体の防衛機構＝免疫に関係しています。そのほか、毒素の中和やアレルギー反応にも関係するといわれています。単球はマクロファージ(大食細胞)に変化して旺盛な貪食能で老廃物や異物を処理するといわれています。リンパ球は免疫と抗体産生に関与しています。

血液型

■ABO血液型

1900年(明治33年)、オーストリアのカール・ラントシュタイナーは、ある人の血清に他の人の赤血球を混合すると、凝集する場合としない場合があることを発見。翌1901年(明治34年)、これを分類して血液に型があることを医学誌に発表しました。

■Rh血液型

1939年(昭和14年)にレヴィーンとステッペンセンは、ヒトの血球に対する血清中の不規則凝集素を明らかにしました。1940年(昭和15年)、ラントシュタイナーとその弟子ウィーナーは、人の赤血球にアカゲザル(Rhesus)と共通の血液型抗原があることを発見。この抗原中に含まれる「D」という抗原の有無によって区別する血液型をアカゲザルの頭文字をとって「Rh因子」と名づけました。

■まれな血液型

まれな血液型とは、その出現頻度が概ね1%以下の血液型をいいます。輸血を必要としている患者さんがまれな血液型で、しかもその抗体をもっている時は、同型のまれな血液型が必要となりますので、あらかじめ冷凍保存している同型の血液を使用したり、同型の血液をもつ方に献血のお願いをしたりするなどして対応しています。しかし一度に必要な量を集めることは大変困難なため、まれな血液型の献血者には、輸血に備えるために登録者になっていただくようお願いしています。

■HLA型

赤血球にABO血液型があるように、白血球にもHLA型という血液型があります。HLA型はヒト白血球抗原(Human Leukocyte Antigen)の略で、その重要性から主要組織適合性抗原ともいわれており、大きく分けてHLA-A、B、C、DR、DQ、DPがあります。血小板減少症を伴う病気など、何度も血小板輸血を受けた患者さんは、HLA抗体が産生されて血小板の輸血効果が得られない場合があります。そのような患者さんにはHLA適合血小板が必要となります。血液センターではこのような場合に備え、事前に献血者に対してHLA型の登録を願ひし、成分献血によるHLA適合血小板の供給に努めています。

血液センター所在地一覧

2021年4月1日現在 54か所

	〒	住所	TEL
北海道	063-0802	札幌市西区二十四軒2条1-1-20	011-613-6121
青森県	030-0966	青森市花園2-19-11	017-741-1511
岩手県	020-0831	盛岡市三本柳6-1-6	019-637-7200
宮城県	981-3206	仙台市泉区明通2-6-1	022-290-2501
秋田県	010-0941	秋田市川尻町字大川反233-186	018-865-5541
山形県	990-0023	山形市松波1-18-10	023-622-5301
福島県	960-1198	福島市永井川字北原田17	024-544-2550
茨城県	311-3117	東茨城郡茨城町桜の郷3114-8	029-246-5566
栃木県	321-0192	宇都宮市今宮4-6-33	028-659-0111
群馬県	379-2154	前橋市天川大島町2-31-13	027-224-2118
埼玉県	337-0003	さいたま市見沼区大字深作955-1	048-684-1511
千葉県	274-0053	船橋市豊富町690	047-457-0711
東京都	162-8639	新宿区若松町12-2	03-5272-3511
神奈川県	222-0032	横浜市港北区大豆戸町680-7	045-834-4611
新潟県	950-0954	新潟市中央区美咲町1-6-15	025-384-0920
山梨県	400-0062	甲府市池田1-6-1	055-251-5891
長野県	381-2214	長野市稲里町田牧1288-1	026-214-8070
富山県	930-0821	富山市飯野26-1	076-451-5555
石川県	920-0345	金沢市藤江北4-445	076-254-6300
福井県	918-8011	福井市月見3-3-23	0776-36-0221
岐阜県	500-8269	岐阜市茜部中島2-10	058-272-6911
静岡県	420-0804	静岡市葵区竜南1-26-19	054-247-7141
愛知県	489-8555	瀬戸市南山口町539-3	0561-84-1131
三重県	514-0003	津市桜橋2-191	059-229-3580
滋賀県	525-8505	草津市笠山7-1-45	077-564-6311
京都府	612-8451	京都市伏見区中島北ノ口町26	075-603-8800
大阪府	536-8505	大阪市城東区森之宮2-4-43	06-6962-7001
兵庫県	651-0073	神戸市中央区脇浜海岸通1-4-5	078-222-5011
奈良県	639-1123	大和郡山市筒井町600-1	0743-56-5916
和歌山県	649-6322	和歌山市和佐閑戸118-5	073-499-7724
鳥取県	680-0901	鳥取市江津370-1	0857-24-8101
島根県	690-0882	松江市大輪町420-21	0852-23-9467

	〒	住所	TEL
岡山県	700-0012	岡山市北区いずみ町3-36	086-255-1211
広島県	730-0052	広島市中区千田町2-5-5	082-241-1246
山口県	753-8534	山口市野田172-5	083-922-6866
徳島県	770-0044	徳島市庄町3-12-1	088-631-3200
香川県	761-8031	高松市郷東町字新開587-1	087-881-1500
愛媛県	791-8036	松山市高岡町80-1	089-973-0700
高知県	783-0043	南国市岡豊町小蓮448	088-866-6660
福岡県	818-8588	筑紫野市上古賀1-2-1	092-921-1400
佐賀県	849-0925	佐賀市八丁噺町10-20	0952-32-1011
長崎県	852-8145	長崎市昭和3-256-11	095-843-3331
熊本県	861-8039	熊本市東区長嶺南2-1-1	096-384-6000
大分県	870-0889	大分市大字荏隈717-5	097-547-1151
宮崎県	880-8518	宮崎市大字恒久885-1	0985-50-1800
鹿児島県	890-0064	鹿児島市鴨池新町1-5	099-257-3141
沖縄県	902-0076	那覇市与儀1-4-1	098-833-4747

北海道ブロック	063-0802	北海道札幌市西区二十四軒2条1-1-20	011-613-6121
東北ブロック	981-3206	宮城県仙台市泉区明通2-6-1	022-354-7070
関東甲信越ブロック	135-8639	東京都江東区辰巳2-1-67	03-5534-7666
東海北陸ブロック	489-8585	愛知県瀬戸市南山口町539-3	0561-89-7800
近畿ブロック	567-0085	大阪府茨木市彩都あさぎ7-5-17	072-643-1007
中四国ブロック	730-0052	広島県広島市中区千田町2-5-5	082-241-1311
九州ブロック	839-0801	福岡県久留米市宮ノ陣3-4-12	0942-31-8900

献血サポーター(「献血」をサポートしていただける企業や団体)を募集しています。



<http://ken-sapo.jp/>

ボランティアを募集しています。

血液センターでは、イベントの実施や献血会場での呼びかけ、接遇などを手伝っていただける方を募集しています。詳しくはお近くの血液センターまでお気軽にお問い合わせください。

施設見学・献血セミナーの実施

血液センターでは、将来の献血血液の確保に向けて、青少年(小中高生)が、夏休み期間などを利用して、血液センターの見学や各種体験学習を通じて献血の重要性を学ぶための取り組みや、地域の施設等を利用して、若年者向けの献血セミナーなどを実施しています。

※血液センターの見学、献血セミナーの開催等については、お近くの血液センターへお問い合わせください。
※一部オンラインでの取り組みを実施しています。

施設見学・各種体験学習・AED講習会など



献血ができる場所一覧

2021年4月1日現在 137か所

都道府県 ルーム名（通称）	住所	TEL
北海道		
北海道赤十字血液センター	札幌市西区二十四軒2条1-1-20	011-613-6673
大通献血ルーム	札幌市中央区大通西4-6-1 札幌大通西4ビル11階	011-271-6381
アスティ献血ルーム	札幌市中央区北4条西5-1 アスティ45ビル7階	011-200-4545
新さっぽろ献血ルーム	札幌市厚別区厚別中央2条5-6-2 Duo(デュオ)1 地下1階	011-895-2555
北彩都あさひかわ献血ルーム	旭川市宮下通7-2-5 イオンモール旭川駅前4階	0166-25-5660
帯広すずらん献血ルーム	帯広市東7条南9-13-4	0155-25-0101
青森県		
青森献血ルーム	青森市長島1-3-1日本赤十字社青森県支部4階	017-722-7003
弘前献血ルームCoCoSA	弘前市大字駅前町8-1 大町タウンビル 2階	0172-39-7711
岩手県		
もりおか献血ルームメルシー	盛岡市大通2-3-7 CT33ビル 4階	019-653-6511
宮城県		
杜の都献血ルームAOBA	仙台市青葉区一番町4-9-18 TICビル6階	022-738-9101
献血ルーム アエル20	仙台市青葉区中央 1-3-1 AER 20階	022-711-2090
秋田県		
献血パーク・るうぶ	秋田市川尻町字大川反233-186	018-865-5541
アトリオン献血ルーム	秋田市中通2-3-8 アトリオン1階	018-836-7811
山形県		
献血ルーム SAKURAMBO	山形市香澄町2-2-36 山形センタービル5階	023-629-8720
福島県		
福島県赤十字血液センター	福島市永井川字北原田17	024-544-2550
郡山駅前献血ルーム	郡山市駅前1-6-10ダイワロイネットホテル郡山駅前3階	024-925-2638
いわき出張所	いわき市中央台飯野5-1-1	0246-29-5624
茨城県		
献血ルームMEET	水戸市宮町1-7-31 水戸駅ビルエクセルみなみ6階	029-224-9226
つくば献血ルーム	つくば市吾妻1-10-1 つくばセンタービル2階	029-852-7888
栃木県		
栃木県赤十字血液センター	宇都宮市今宮4-6-33	028-659-0111
うつのみや大通り献血ルーム	宇都宮市大通り2-1-5 明治安田生命宇都宮大通りビル1階	028-632-1131
群馬県		
高崎駅献血ルーム Harmony	高崎市八島町222 JR高崎駅東口3階イーサイト内	0120-80-5870
前橋献血ルーム	前橋市南町3-9-5 大同生命ビル1階	0120-80-5871
太田献血ルーム	太田市飯塚町1549-2	0120-80-5872
埼玉県		
大宮献血ルーム ウエスト	さいたま市大宮区桜木町2-4-1 DOM PARTⅢ5・6階	048-658-5757
越谷レイクタウン献血ルーム	越谷市レイクタウン3-1-1 イオンレイクタウンmori 1階	048-987-3737
所沢プロベ通り献血ルーム	所沢市日吉町10-19 Tokorozawa ex 2階	04-2903-9277
川越クレアモール献血ルーム	川越市脇田町4-2 ドン・キホーテ川越東口店4階	049-225-8760
鴻巣献血ルーム	鴻巣市鴻巣405-4 埼玉県運転免許センター内	048-543-5511
熊谷駅献血ルーム	熊谷市筑波2-112 JR熊谷駅構内	048-525-8802
川口駅献血ルーム	川口市栄町3-1-24 川口駅東口ビル3階	048-223-7661
千葉県		
モノレールちば駅献血ルーム	千葉市中央区新千葉1-1-1 千葉都市モノレール千葉駅構内	043-224-0332
運転免許センター献血ルーム	千葉市美浜区浜田2-1 千葉運転免許センター内	043-276-3641
津田沼献血ルーム	船橋市前原西2-19-1 津田沼パルコB館6階	047-493-0322
献血ルーム フェイス	船橋市本町1-3-1 Faceビル7階	047-460-0521
松戸献血ルームPure	松戸市松戸1307-1 松戸ビル1階	047-703-1006
柏献血ルーム	柏市柏2-2-3 榎本ビル5階	04-7167-8050

都道府県 ルーム名（通称）	住所	TEL
東京都		
都庁献血ルーム	新宿区西新宿2-8-1 都庁都民広場地下1階	03-3343-2231
新宿西口献血ルーム	新宿区西新宿1丁目西口地下街1号	03-3348-1211
献血ルーム新宿ギフト	新宿区新宿3-18-1 丸井新宿東口ビル9階	03-6380-0331
新宿東口駅前献血ルーム	新宿区新宿3-25-1 ヒューリック新宿ビル10階	03-6380-0635
ハチ公前献血ルーム	渋谷区道玄坂2-3-2 大外ビル6階	03-3476-2880
献血ルーム 池袋い〜すと	豊島区東池袋1-1-4 タカセセントラルビル8階	03-3988-9000
献血ルーム 池袋ぶらっと	豊島区東池袋1-12-8 フジキビル3階	03-5950-3000
有楽町献血ルーム	千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館6階	03-3213-8666
akiba:F 献血ルーム	千代田区外神田1-16-9 朝風二号館ビル5階	03-3251-8201
献血ルーム feel	墨田区押上1-1-2 東京スカイツリータウン・ソラマチ10階	03-6456-1972
献血ルーム 吉祥寺タキオン	武蔵野市吉祥寺本町1-15-2 ダイハパローレビル8階	0422-21-9000
立川献血ルーム	立川市曙町2-7-17 丸井・井上共同ビル地下1 階	042-527-1140
まちだ献血ルームcomfy	町田市原町田6-6-3 町映ビル7階	042-732-8494
神奈川県		
横浜駅東口クロスポート献血ルーム	横浜市区西高島2-13-2 横浜駅前共同ビル7階	045-444-1088
横浜Leaf献血ルーム	横浜市区西北幸1-6-1 横浜ファーストビル14階	045-534-7173
横浜駅西口献血ルーム	横浜市区神奈川区鶴屋町2-23-2 TSプラザビル1階	045-314-7082
二俣川献血ルーム	横浜市区旭区中尾1ー1ー2	045-361-0330
かわさきルフロン献血ルーム	川崎市川崎区日進町1-11 川崎ルフロン9階	044-245-1857
みぞのくち献血ルーム	川崎市高津区溝口1-3-1 NOCTYプラザ 1 10階	044-813-0311
クロスウェーブ湘南藤沢献血ルーム	藤沢市南藤沢21-8 大安興業ビル2階	0466-25-8877
本厚木献血ルーム	厚木市中町2-8-13 TPR厚木ビル1階	046-225-7001
新潟県		
献血ルームばんだいゆとり	新潟市中央区万代1-4-33 損保ジャパン・新潟セントラルビル2階	0120-86-9950
献血ルーム 千秋	長岡市千秋2-1087-1 リバーサイド千秋センタープラザ2階	0120-05-6339
山梨県		
甲府献血ルーム グレーブ	甲府市丸の内1-16-20 kokoriビル2階	055-235-3135
長野県		
長野駅献血ルーム	長野市問卸所町1271-3 TOiGO WEST2階	026-219-2480
松本献血ルーム サントビューネ	松本市中央1-8-11 セントラル松本中央ビル2階	0263-37-1600
諏訪出張所	諏訪市清水3-3840-1	0266-53-7211
富山県		
マリエ献血ルーム	富山市桜町1-1-61 マリエとやま6階	076-445-4500
石川県		
献血ルーム くらつき	金沢市鞍月東1-1	076-237-3745
献血ルーム ル・キューブ	金沢市袋町1-1 かなざわはこまち3階	076-220-1655
福井県		
献血ホール いぶき	福井市月見3-3-23	0776-36-0221
岐阜県		
あかなべ献血ルーム	岐阜市茜部中島2-10	058-272-6911
新岐阜献血ルーム	岐阜市長住町2-3 岐阜ビル5階	058-264-2122
静岡県		
献血ルーム・みゅうず	浜松市中区板屋町110-5 浜松第一生命日通ビル1階	053-413-2070
献血ルーム・あおば	静岡市葵区七間町8-20 毎日江崎ビル6階	054-272-5858
献血ルーム・柿田川	駿東郡清水町伏見58-26	055-991-7575
愛知県		
愛知県赤十字血液センター	瀬戸市南山口町539-3	0561-84-1131
愛知県赤十字血液センター豊橋事業所	豊橋市東脇3-4-1	0532-32-1331
献血ルーム タワーズ20	名古屋市中村区名駅1-1-4 JRセントラルタワーズ20階	052-571-1002
献血ルームゲートタワー26	名古屋市中村区名駅1-1-3 JRゲートタワー26階	052-589-2229
栄献血ルーム	名古屋市中区栄3-15-33 栄ガスビル9階	052-242-7030
大須万松寺献血ルーム	名古屋市中区大須3-30-40 万松寺ビル1階	052-251-7161
豊田献血ルーム	豊田市若宮町1-57-1 T-FACE A館9階	0565-35-4480
岡崎献血ルーム	岡崎市明大寺町字寺東1-1 名鉄東岡崎駅南館5階	0564-52-1800

都道府県 ルーム名（通称）	住所	TEL
三重県		
三重県赤十字血液センター	津市桜橋2-191	0120-05-5632
献血ルーム サンセリテ	四日市市安島1-3-31 ララスクエア四日市5階	0120-39-5863
献血ルーム ハートワン	伊勢市船江1-471-1 ミタス伊勢内	0120-25-7821
滋賀県		
滋賀県赤十字血液センター	草津市笠山7-1-45	077-564-6311
びわ湖草津献血ルーム	草津市西渋川11-1-14 行岡第一ビル6階	077-584-5678
京都府		
献血ルーム 四条	京都市下京区四条通柳馬場西入ル立売中之町99 四条SETビル5階	075-231-5011
献血ルーム 京都駅前	京都市下京区烏丸通七条下ル東塩小路町735 京阪京都ビル6階	075-361-9333
献血ルーム 伏見大手筋	京都市伏見区東大手町763 若由ビル1階	075-603-1350
大阪府		
大阪府赤十字血液センター	大阪市城東区森之宮2-4-43	0120-32-6759
阪急グランドビル25献血ルーム	大阪市北区角田町8-47 阪急グランドビル25階	0120-37-6759
西梅田献血ルーム	大阪市北区梅田2-22 ヒルトンプラザウエストオフィスタワー10階	0120-31-6759
御堂筋献血ルーム CROSS CAFÉ	大阪市中央区西心斎橋1-4-5 御堂筋ビル地下1階	0120-27-6759
まいどなんば献血ルーム	大阪市中央区難波4-4-4 難波御堂筋センタービル4階	0120-29-6759
あべの献血ルーム KiZooNa	大阪市阿倍野区阿倍野筋1-3-21 岸本ビル3階	0120-36-6759
門真献血ルーム	門真市一番町23-16門真運転免許試験場別館1階	0120-35-6759
京阪枚方市駅献血ルーム	枚方市岡東町19-1 京阪枚方市駅東口1階	0120-33-6759
阪急茨木市駅献血ルーム	茨木市永代町1-5 ロサヴィア1階	0120-34-6759
堺東献血ルーム	堺市堺区北瓦町2-4-18 現代堺東駅前ビル5階	0120-38-6759
南大阪事業所	貝塚市沢 356-1	0120-73-6759
兵庫県		
ミント神戸15献血ルーム	神戸市中央区雲井通7-1-1 ミント神戸15階	078-242-6360
三宮センタープラザ献血ルーム	神戸市中央区三宮町2-11-1 センタープラザ西館3階	078-391-7070
新長田鉄人前献血ルーム	神戸市長田区若松町5-2-1 アスタプラザファースト地下1階	078-641-6300
明石運転免許試験場献血ルーム	明石市北朝霧丘2-13-7	078-914-8192
塚口さんさんタウン献血ルーム	尼崎市南塚口町2-1-2-3-12 塚口さんさんタウン2番館3階	06-6429-1411
姫路みやゆき献血ルーム	姫路市駅前町241 フェスタビル北館4階	079-288-5718
にきた献血ルーム	西宮市北口町1-1 アクタ西宮西館2階	0798-56-7901
奈良県		
奈良県赤十字血液センター	大和郡山市筒井町600-1	0743-56-5916
近鉄奈良駅ビル献血ルーム	奈良市東向中町28 奈良近鉄ビル6階	0742-22-2122
和歌山県		
和歌山駅前献血ルーム	和歌山市美園町5-1-2 新橋ビル5階	073-427-2770
鳥取県		
鳥取県赤十字血液センター	鳥取市江津370-1	0857-24-8101
献血ルームひえづ	西伯郡日吉津村日吉津1160-1 イオンモール日吉津東館1階	0859-27-1724
島根県		
献血ルーム だんだん	松江市大輪町420-21	0120-23-9469
岡山県		
献血ルーム うらら	岡山市北区いずみ町3-36	086-256-6568
献血ルーム ももたろう	岡山市北区表町1-5-1 岡山シンフォニービル1階	086-225-6301
広島県		
献血ルーム もみじ	広島市中区本通6-11 明治安田生命広島本通ビル1・2階	082-248-6034
献血ルーム ビース	広島市中区紙屋町2-3-20 SOCIO SQUARE KAMIYACHO 4階	082-248-1230
山口県		
やまぐち献血ルームFor you	山口市野田172-5	083-922-6866
徳島県		
献血ルーム アミコ	徳島市元町1-24 アミコビル3階	0120-688-950
香川県		
献血ルーム オリーブ	高松市丸亀町13-3 高松丸亀町参番街東館3階	0120-34-2307
愛媛県		
大街道献血ルーム	松山市大街道1-4-17	089-932-0900
高知県		
献血ルームハートピアやまも	高知市本町1-1-3 朝日生命高知本町ビル2階	088-822-5454

都道府県 ルーム名（通称）	住所	TEL
福岡県		
献血ルームハッピークロスイズ	福岡市中央区天神1-7-11 イムズ8階	092-726-1188
献血ルーム キャナルシティ	福岡市博多区住吉1-2-25 キャナルシティ ビジネスセンタービル1階	092-272-5853
献血ルーム おっしょい博多	福岡市博多区博多駅中央街2-1 博多バスターミナル8階	092-476-1400
献血ルーム 魚町銀天街	北九州市小倉北区魚町1-3-3 白樺ビル1階	093-551-1211
献血ルームくろさきクロバー	北九州市八幡西区西曲里町3-1 イオンタウン黒崎1階	093-644-1211
佐賀県		
献血プラザさが	佐賀市八丁畷町10-20	0952-32-1011
長崎県		
献血ルーム西海	佐世保市上京町6-16 オレンジアベニュービル5階	0956-25-2440
献血ルーム はまのまち	長崎市浜町8-10 多真喜ビル3階	095-824-3332
熊本県		
日赤プラザ献血ルーム	熊本市東区長嶺南2-1-1	096-384-6727
下通り献血ルームCOCOSA	熊本市中央区下通1-3-8 下通NSビル5階	096-325-9218
大分県		
献血ルーム・わたたん	大分市大字沢字楠本755-1「トキハわさだタウン」3街区2階	097-574-6822
宮崎県		
献血ルーム カリーノ	宮崎市橘通東4-8-1 カリーノ宮崎3階	0985-23-0007
鹿児島県		
献血プラザかみいけクロス	鹿児島市鴨池新町1-5	099-257-3141
献血ルーム・天文館	鹿児島市東千石町13-16 天文館ビル2階	099-222-6511
沖縄県		
くもじ献血ルーム	那覇市久茂地1-3-1 久茂地セントラルビル3階	098-864-0368

献血ルームの詳細や、献血バスの運行予定や各種イベント・キャンペーンなど、献血に関する更なる情報については、日本赤十字社のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.jrc.or.jp/donation/>

日本赤十字社 献血

検索

